

科目名	SES100: 基礎ゼミナール			担当教員	平野 幸治, 丹木 博一, 森下 園, 飯田 純也, 杉村 美佳, 小林 宏子, 岩崎 明子
開講期	春	分類	必修		
単位	2	標準受講年次	1年		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要			学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。			2-④

担当教員の 連絡情報	担当教員	研究室	オフィスアワー	連絡先
	平野 幸治	4210	水 2・3 限、木 2~4 限	
	丹木 博一	4214	(春学期) 月 3 限、金 2 限 (秋学期) サバティカル	
	森下 園	4202	月 3 限、火 3 限、木 4 限	
	飯田 純也	4216	(春学期) 水 5 限、木 2・3 限 (秋学期) 木 2・3 限、金 2 限	
	杉村 美佳	4220	(春学期) 水 5 限、金 2 限、金 5 限 (秋学期) 火 5 限、金 5 限	
	小林 宏子	4204	(春学期) 火 4 限、水 4 限、木 4 限 (秋学期) 火 4 限、木 2 限	
	岩崎 明子	4213	(春学期) 水 5 限、木 5 限 (秋学期) 月 5 限、火 4 限	

キーワード	導入教育、自立と自律、大学生としての学び、プレゼンテーションの方法、ノートの取り方、進路、小論文の書き方、研究倫理
授業の概要	本学の教育理念である“Men and women for others, with others”を目指す学生生活への導入となる授業です。大学での学びに必要なアカデミックスキルを身につけ、将来のキャリア形成を視野に入れた大学生生活のプランをたてていきます。
達成目標	大学での自律した学びに必要なアカデミックスキルが身につきます。具体的には、さまざまな分野の問題を論じるために必要となる専門的な情報や知識をどのように得て、プレゼンテーションや小論文としてどのように発信していくかを実践しながら学びます。また大学生が知っておくべき研究倫理についても学びます。
到達目標	学生同士のディスカッション、プレゼンテーションを中心に日本語での発信力を磨きます。また、専任教員による Moodle 上のショートレクチャーや小論文を用いて、ノートテイキング技術や要約の仕方、小論文の書き方を実践的に身につけます。
評価方法	①課題：6%×6回=36%、②Moodle教材のノートテイキング：4%×3回=12%、③プレゼンテーション：22%（発表15%、司会7%）、④小論文作成：30%。
評価基準	①課題：提出期限・内容と書式の遵守で6点、遅れた場合（翌日午後5時まで、以後は受け付けない）マイナス3点、内容または書式が守られていない場合はマイナス2点 ②ノートテイキング：3つのレクチャーについてきちんとノートをとっている4点、そうでない2点 ③プレゼンテーション：内容が整理されていて、聞き手にむけて顔をあげてきちんと話している15点、内容・提示資料が整理されていない、顔をあげてきちんと話していない場合は各マイナス5点、司会：質問が適切で顔をあげてきちんと話している7点、質問が不適切、きちんと話していない場合は各マイナス2点 ④小論文：論点が明確でパラグラフライティングができており、書式・提出期限を守れば30点、論点・パラグラフライティングが不完全、書式・提出期限を守っていない場合は各マイナス10点となる。なお、欠席した回の課題は提出しても採点対象とはしない。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	他者のために、他者とともに生きる、自己を知り、自己を確立する、アカデミックスキルと研究倫理について	テキスト1、2章講読、自己紹介、グループディスカッション、DVD視聴	本学の三つのポリシーとテキストの学長のメッセージを読む
2	世界に目を向け、異文化に心を開く、ポートフォリオで自主的な学修	DVD視聴、グループディスカッション	テキスト4章講読、課題①視聴 DVD内容の要約
3	学ぶ姿勢を見直そう — 大学での学び、ノートの取り方のこつ、スケジュール管理、インターネット・SNS利用上の留意点	DVD視聴、ノートテイキング、グループディスカッション	テキスト5章講読、課題②視聴 DVD内容の要約 400字
4	最初の一步を踏みだそう — 質問の仕方、レポート作成時の注意事項、プレゼンの準備、研究倫理について	DVD視聴、グループディスカッション、質疑応答	テキスト6章講読、課題③視聴 DVD内容の要約 400字、ゼミ紹介出席
5	文章の Paragraph 構造 — 要約と文章の中心文	DVD視聴、グループディスカッション	視聴 DVD内容の論点整理、Moodle教材ノートテイキング①、プレゼンテーションの準備
6	ゼミ選択と進路選択 — 卒業までの計画、進路決定のために何をするか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト7章講読、課題④ Paragraphライティング、Moodle教材ノートテイキング②、プレゼンテーションの準備
7	編入への道 — 編入試験の概要、進学のために何をすべきか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト8章講読、Moodle教材ノートテイキング③、プレゼンテーションの準備
8	就職への道 — 働くとはどういうことか、企業は学生に何を求めているのか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト9章講読、プレゼンテーションの準備、ゼミ説明会出席
9	女性のキャリアとライフコース — 働く女性の状況、あなたのライフプラン + プレゼンテーション	DVD視聴、グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト10章講読、課題⑤視聴 DVD内容の要約、プレゼンテーションの準備
10	キャリア・パスを考える — なぜ進学/就職するのか、理由を説明する + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト11章講読、進路について考えてくる、プレゼンテーションの準備
11	将来の夢を実現するためのリサーチ — 進路別のグループでリサーチプランを作成	グループディスカッション、情報収集の仕方	テキスト12章講読、小論文のためのリサーチ
12	論点をまとめる — リサーチしたことをグループでシェア、小論文の骨組みをつくる、引用の仕方	グループディスカッション、アウトライン作成	テキスト13章講読、小論文のためのリサーチ、学修ポートフォリオの用紙をダウンロードしてくる
13	小論文を書く — 先行研究や得た情報を踏まえてメイン・Paragraphを作成、学修ポートフォリオの書き方	小論文の相互チェック、講評	課題⑥小論文のアウトライン作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	情報リテラシー、小論文の確認・修正、リフレクション・タイム(学修ポートフォリオ作成)	グループワーク	テキスト15章講読 小論文作成

テキスト	上智大学短期大学部編『Essentials — A Guide to Finding the Right Career Path for You』
参考書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)
その他 特記事項	アッセンブリーアワーに全専任教員によるゼミ紹介とノートテイキングの説明が1回あるので必ず出席すること。日時・場所については初回授業でお知らせします。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	永野 良博	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4218	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	現代アメリカ文学、Ernest Hemingway、冰山理論、個人の確立、家族、共同体							
授業の概要	アメリカの作家 Ernest Hemingway による文学作品とそれらに関する研究書・論文を読み、小説の研究に必要な基礎的な知識を身に付けてゆく。多くを語らない抑制された文章を読み、創造的に主題を読み取る。扱われる主題は、個人の確立、家族、友人、恋人、生と死、戦争、伝統とそこからの脱却、社会的マイノリティとの関係、文明と自然、ジェンダー、身体論等。授業では学生同士そして教員との意見交換が中心となる。							
達成目標	文学作品の登場人物の心理と人間関係を理解することが出来る。そしてそれらをより広い社会や歴史上の問題と関連させて考え、口頭及び文章において論じることが出来るようになる。様々な研究主題とそれらが持つ重要性を理解し、そこから独自の文学論を形成し、最終的には人間性と社会に関して、学生個人として新たな発見をすることが出来る。							
到達目標	文学作品と研究資料からメモを取ることから始めて、文学的主題の発見と研究方法の基礎を身に付けることが出来る。同時に日々の気付きと研究成果について、授業で他の学生と討論を重ね、発展させることが出来る。作品と先行研究を十分に理解し、それらに関する自分の意見を発展させて研究ノートにまとめ、独自の主題を設定し、論文を作成出来る。さらに最終的な研究の成果を効果的に口頭発表出来る。							
評価方法	授業参加 (40%)、研究ノート (30%)、論文 (20%)、論文発表 (10%)							
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、理解し、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を発表出来ること。研究ノートでは作品と先行研究に関する十分な理解を示し、それに対する自分独自の意見の記述をする。論文では以上の成果を基に明確で論理的な文学論を書く。論文の発表では、口頭での明確な意見の発表と共に、十分な質疑応答が出来るよう、発表内容に関する補足説明事項や発展的な考えを準備する。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Ernest Hemingway 初期短編導入 冰山理論と作品読解に向けて 課題説明	講義、意見交換	“The Doctor and the Doctor’s Wife” を読む
2	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 父と母、科学と宗教、倫理的行為	意見交換	“The Doctor…,” 研究書・論文を読む
3	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 悪の拒絶、異人種との共存	講義、意見交換	“The Doctor…,” 研究書・論文を読む
4	“Soldier’s Home” 失われた世代、破壊と日常、破壊と文明	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書・論文を読む
5	“Soldier’s Home” 虚偽の人生、愛の喪失、伝統的共同体	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書・論文を読む
6	“Cat in the Rain” 他者の欲望と自己の欲望、夫婦の危機	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書・論文を読む
7	“Cat in the Rain” 髪を伸ばすこと、猫が表すものの、父権制	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書・論文を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	“Indian Camp” 生と死、通過儀礼、マイノリティー女性の身体	意見交換	“Indian Camp,” 研究書・論文を読む
9	“Indian Camp” 自然・文明・テクノロジー、論文作成法、大学生の研究倫理	意見交換	“Indian Camp,” 研究書・論文を読む
10	“End of Something” 未成熟な恋愛、時間について	意見交換	“End of Something,” 研究書・論文を読む
11	“End of Something” ハードボイルド的文体、男性間の連帯と女性	意見交換	“End of Something,” 研究書・論文を読む
12	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
13	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	研究発表 リフレクションタイム	口頭発表と質疑応答 意見交換	発表原稿・学修ポートフォリオ作成
テキスト	Ernest Hemingway. <i>The Complete Short Stories of Ernest Hemingway</i> (Scribners). アーネスト・ヘミングウェイ『われらの時代・男だけの世界』(新潮文庫) Hemingway に関する研究書・論文		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	永野 良博	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4218	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	現代アメリカ小説、自由意志と主体的な生をめぐる考察、英文読解、小説へのアプローチ							
授業の概要	20 世紀後半アメリカのポストモダニズムを代表する Kurt Vonnegut と John Barth による作品と、それらに関連する資料を読み、小説の研究に必要な知識を身に付ける。中心的主題は自由意志及び主体的な生をめぐる考察である。それらの中核に、戦争、生と死、時間、歴史、個人の責任、愛、倫理等の問題を論じる。作品理解を深め、独自の主題発見をし、精読により英文読解力の向上を目指す。学生同士の議論と学生による研究発表が中心となる。							
達成目標	文学作品の登場人物の心理と彼等の社会・歴史との複雑な関係を読み取ることが出来る。また様々な文学的主题への理解を深め、それらを文学研究者達がどのように論じ、人間性や社会に関する発見へと繋げてきたのか理解出来る。文学作品の読み取り方、文学に関する研究論文の書き方を習得する。同時に発表力、質問力、そして意見交換を通じた建設的な議論実行力を身に付けることが出来る。文学作品の英文を読み解くことが出来る。							
到達目標	登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、出来るだけ多くの主題を読み取り、独自の主題発見が出来る。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点・可能性について知り、議論を発展させることが出来る。独自の主題に基づく文学論作成を行い効果的に口頭発表出来る。英語の文学作品の読解を通して比喩的かつ重層的な文章の読解力を伸ばすことが出来る。							
評価方法	授業参加（文学作品に関する議論及び英文読解）（40%）、論文（40%）、研究発表（20%）							
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的主题の発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力が求められる。発表は主題を適切にまとめたレジメを基に行い、質問に対して、周到な調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要。英文読解では文学作品の英文の正確な理解が必要である。							
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	【Kurt Vonnegut, Slaughterhouse-Five】時間の中の彷徨、時間と死の概念	資料講読、意見交換	小説第 1 章 ハンドアウト pp.1-3
2	第二次世界大戦、少年期再訪、復讐、死の予告	資料講読、意見交換	小説第 2 章 - 3 章 ハンドアウト pp.4-6
3	決定論と自由意志、個人の歴史への関わり、宇宙の終末、予定説	資料講読、意見交換	小説第 4 章 - 5 章 ハンドアウト pp.7-9
4	カルヴィニズム、ナチスへの徹底抗戦、不条理な死、ドレスデン爆撃の記憶	資料講読、意見交換	小説第 6 章 - 7 章 ハンドアウト pp.10-12
5	飛行機墜落事故と不条理な死、妻への愛、空想科学小説、自己と世界の再創造	資料講読、意見交換	小説第 8 章 - 9 章 ハンドアウト pp.13-16
6	主題分析まとめ、論文作成法、大学生の研究倫理	資料講読、講義、意見交換	小説第 10 章 ハンドアウト p.17
7	【John Barth, The End of the Road】自己喪失、選択不可能状態	資料講読、意見交換	小説第 1 章 - 3 章 ハンドアウト pp.18-20

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	実存主義、相対主義的世界に関する議論、内在的価値の否定	資料講読、意見交換	小説第4章 - 5章 ハンドアウト pp.21-23
9	個人が独自の価値観と視点を持ち一貫性を保持すること、愚かさに関する議論	資料講読、意見交換	小説第6章 - 7章 ハンドアウト pp.24-26
10	古き自己の放棄、個人の独自性、真正なる個人、姦通と動機の不在	資料講読、意見交換	小説第8章 - 9章 ハンドアウト pp.27-29
11	神話療法、原因の探求、行動の結果への責任、個人と主体、主題分析まとめ	資料講読、意見交換	小説第10章 - 12章 ハンドアウト pp.30-34
12	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
13	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	研究発表、リフレクション・タイム	発表、質疑応答、意見交換	研究発表・学修ポートフォリオ準備

テキスト	Kurt Vonnegut. <i>Slaughterhouse 5</i> (Dell). カート・ヴォネガット『スローターハウス5』(ハヤカワ書房) John Barth. <i>The End of the Road</i> (Anchor). ジョン・バース『旅路の果て』(白水社) ハンドアウト
参考書	トマス・ピンク『哲学が分かる 自由意志 (A VERY SHORT INTRODUCTION)』(岩波書店) 巽孝之監修『現代作家ガイド6 カート・ヴォネガット』(彩流社)

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	永野 良博	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4218	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	アメリカ小説の自律的研究、独自の主題の発見とそれへのアプローチ							
授業の概要	アメリカ小説を第一次資料とし、小説に学生自らが興味を持つ主題を関連させながら研究を進め、その成果を報告し、討論を行い、研究論文を作成する。学期前半には学生が研究対象として選択した小説の意義とその後追求する研究課題を口頭発表により明らかにする。それを基に、多様な第二次資料の読解と理解を基に研究を発展させ、その成果を発表し、論文にまとめる。学生同士の議論そして学生による研究発表が中心となる。							
達成目標	文学作品の登場人物の心理と彼等の社会・歴史との複雑な関係を読み取ることが出来る。また様々な文学的テーマに慣れ親しみ、それらを文学研究者達がどのように論じ、人間性や社会に関する発見へと繋げてきたのか理解出来る。春学期に修得した知識を活かし、より幅広く研究・調査を行い、自らの研究主題を発展出来る。そして学期末に充実した研究論文を提出する。文学作品の英文を読み解くことが出来る。							
到達目標	登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、多くの主題を読み取り、独自の課題発見を基に主題設定することが出来る。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点・可能性について知り、議論を発展させることが出来る。独自の文学論を作成し、それを効果的に口頭発表し、充実した研究論文を提出する。英語の文学作品の読解を通して比喩的かつ重層的な文章の読解力を伸ばすことが出来る。							
評価方法	授業参加(文学作品に関する議論)(20%)、論文(50%)、研究発表(30%)							
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的テーマの発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力、そして人間性や社会についての新たな発見が求められる。発表は主題を適切にまとめたレジュメを基に行い、質問に対して、周到な調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要である。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	論文作成の方法、大学生の研究倫理	講義・質疑応答	ハンドアウトを読む
2	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
3	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
4	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
5	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
6	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
7	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
9	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
10	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
11	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
12	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
13	研究対象となる作品・研究課題の発表研究	発表・質疑応答	発表準備に関わる資料読解・資料作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミナール論文概要発表、リフレクション・タイム	発表・質疑応答、意見交換	研究発表準備、資料読解、資料作成、学修ポートフォリオ作成
テキスト	学生が各自第一次資料及び第二次資料を選ぶ。また学生が研究発表用の資料を授業で配布する。その他、担当教員が論文作成や発表に関わる資料を必要に応じて配布する。		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	平野 幸治	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4210	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	曖昧さ (ambiguity)、成熟 (maturity)、不寛容 (intolerance)、和解 (reconciliation)							
授業の概要	プレゼミでは20世紀の前半のイギリス作家 E.M. フォスターの作品を取り上げ、文学の文学研究の専門用語と概念が理解できるように授業を展開する。テキストや DVD を使用して分析のポイントを考察し、特にプロット展開とどう結びつくのかを理解する。小グループに分かれて文学研究や作品研究の方法や読者としての主体性の在り方を討論し、学期末にはグループワークによる成果を協力して発表する。							
達成目標	学生は、E.M. フォスターの小説『ハワーズ・エンド』と『眺めの良い部屋』、批評『小説の諸相』から、文学研究の専門用語と概念が理解できることを主眼に、特に彼の作品の持つ個性と汎用性に着目し、小グループに分かれて互いに意見を出し合い、彼の作品の今日的意義について討議する。また William Shakespeare の作品を用いて、専門研究の知識と手順の手がかりを身につけ、学期末にはグループワークの発表を行う。							
到達目標	①学期末に学生は、作品の要約や意見が的確な英語で書けるようになる。②グループで意見を出し合い、自分の意見を相対化することができるようになる。③グループワークによって研究の知識と手順の手がかりを身につけ、グループで発表できるようになる。④研究者としての倫理を踏まえ引用を用いた 3,000 字程度の日本語のレポートが書けるようになる。発問の仕方、作品研究の方法と英文学の知識を獲得できる。							
評価方法	①毎回の授業で回収する shuttle card の英語で述べる観点 (2%×15回=30%)。②グループディスカッション終了時にグループ内の書記がフォームに記入しその成果を発表する観点 (5%×4回=20%)。③グループワークの成果をプレゼンテーション (10分程度の発表) する観点 (10%×2回=20%)。④各自の発表を研究者としての倫理を踏まえたレポート (3,000 字程度の日本語の文章) を学期末に提出する観点 (30% : レポート 20%+アブストラクト提出 10%)。							
評価基準	評価基準の詳細は授業の初回時に説明します。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション: E.M. フォスターの文学的意義と research について	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
2	E.M. フォスターの作品研究『ハワーズ・エンド』: 描写の「曖昧さ」の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
3	E.M. フォスターの作品研究『ハワーズ・エンド』: 描写の「曖昧さ」の多様性	②-1 グループディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	作品研究『ハワーズ・エンド』: 登場人物内面の変化、特に不寛容について	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
5	作品研究『ハワーズ・エンド』: 登場人物内面の展開、特に和解について	②-2 グループディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
6	作品研究『ハワーズ・エンド』: 比喩の持つ意義	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
7	作品研究『ハワーズ・エンド』のグループ発表	③-1 グループ・ワークの発表と講評	発表原稿の整理とレジユメの作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』: 語り手の「曖昧さ」の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリント(1500wds)の下調べおよびDVDを視聴
9	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』: 語り手の「曖昧さ」の効果	②-3 グループディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
10	作品研究『眺めの良い部屋』: 登場人物内面の変化と展開	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント(1500wds)の下調べおよびDVDを視聴
11	作品研究『眺めの良い部屋』: 登場人物内面の変化、特に成熟について	②-4 グループディスカッションと発表	ノートの整理とレジュメの下調べと資料整理
12	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』のグループ発表	③-2 グループ・ワークの発表と講評	発表原稿の整理とレジュメの作成
13	William Shakespeare の作品研究と研究者としての倫理構築と plagiarism	④ レポートの提出と講義	原稿の整理とプリント(1500wds)の下調べ
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	リフレクション・タイム(学修ポートフォリオ作成)とレポート返却	グループディスカッションと講評	ノートの整理と学修ポートフォリオの準備

テキスト	Stanley Wells. <i>William Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (OUP). 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』(岩波新書)
参考書	河合祥一郎『シェイクスピア: 人生劇場の達人』(中公新書) <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	平野 幸治	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4210	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	曖昧さ (ambiguity)、比喩 (metaphor)、共感 (empathy)、和解 (reconciliation)							
授業の概要	文学研究の専門用語が理解できるように、現代のイギリス作家 Kazuo Ishiguro の作品研究の成果を活かし、彼の作品の持つ個性と汎用性を考慮して授業を展開する。テキストを使用して分析のポイントを考察し、特にプロット展開とどう結びつくのかを理解する。また小グループに分かれて文学研究や作品研究の方法や読者としての主体性の在り方を討議し、学期末にはグループワークによる成果を協力して発表する。							
達成目標	学生は、Kazuo Ishiguro の文学作品『日の名残り』、『私を離さないで』、『忘れられた巨人』から、文学研究の専門用語と概念が理解できるようになる。特に彼の作品の持つ個性と汎用性に着目し、小グループに分かれて互いに意見を出し合い、彼の作品の今日的意義について討議する。また William Shakespeare の劇『ヘンリー4世』を用いて、専門研究の知識と手順の手がかりを身につけ、学期末にグループで発表の準備をする。							
到達目標	学期末には学生は、プロット・サマリーや DVD の視聴に基づき作品についてグループ・ディスカッションや 10 分程度の発表ができるようになる。他者の意見を聞くことによって自己の考えを相対化し、意見を修正し、その成果に基づいて十分な具体例や作品からの引用を用いて論理的に 3,000 語程度の日本語の文章が書けるようになる。							
評価方法	①グループ・ディスカッション終了時に専用フォームにグループ内の書記が記入しその成果を発表する (5%×4 回=20%)。②グループワークの成果をプレゼンテーションする (25%)。③グループ・ワークのプレゼンテーションをした後で、各自の発表のレポートを学期末に提出する (25%)。④毎回の授業の終了時に回収する Shuttle card に授業に関する質問や意見をきちんとした日本語で述べる (2%×15 回=30%)。							
評価基準	評価基準の詳細は授業の初回時に説明します。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション: 授業の進め方と Kazuo Ishiguro の文学的意義について	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
2	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	①A グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
3	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 登場人物内面の変化と展開	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
4	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 内面の変化、特に共感について	①B グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
5	Kazuo Ishiguro の作品『日の名残り』の②グループ発表	ディスカッションの結果を踏まえた講義	発表原稿の整理と YouTube 視聴 (90 分)
6	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サマリーの説明	プリント (1500wds) の下調べおよび DVD を視聴
7	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 登場人物内面の変化と展開	①C グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理と YouTube 視聴

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 内面の変化、特に和解について	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリント(1500wds)の下調べおよびDVDを視聴
9	Kazuo Ishiguro の作品『私を離さないで』の ②グループ発表	発表と質疑応答	発表原稿の整理とYouTube視聴(90分)
10	Kazuo Ishiguro の作品研究『忘れられた巨人』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サマリーの説明	プリント(1500wds)の下調べ
11	Kazuo Ishiguro の作品研究『忘れられた巨人』: 登場人物内面の変化と展開	①Dグループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
12	Kazuo Ishiguro の作品『忘れられた巨人』の ②グループ発表	発表と質疑応答と講評	発表原稿の整理
13	William Shakespeare『ヘンリー4世』の発表の準備と研究倫理や plagiarism について	講義とプロット・サマリーの説明	③レポートの提出準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Kazuo Ishiguro の世界とリフレクション・タイム(学修ポートフォリオ作成)	返却、講評とディスカッション	学修ポートフォリオの準備
テキスト	Stanley Wells. <i>William Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (OUP). プリント配布		
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』(白水社) S. Barnet & W. Cain. <i>A Short Guide to Writing about Literature</i> (Pearson).		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	平野 幸治	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4210	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	Ambiguity (曖昧さ), metaphor (比喩), intolerance (不寛容さ), reconciliation (和解)							
授業の概要	前半は、William Shakespeareの劇を取り上げて、文学研究の専門用語と概念が理解できるように授業を展開する。悲劇および喜劇をそれぞれ一つ取り上げて扱い、グループでそれぞれの劇のテーマと演出の効果についてディスカッションをする。後半は、 <i>The Hours</i> を取り上げて、映像と文学の観点から考察する。学期末にはゼミ論文を完成し、口頭発表をする。発問の仕方、回答の仕方と文学の知識を日常的に検証する。							
達成目標	学期前半はゼミナールⅠで獲得した文学研究の方法論をWilliam Shakespeareの劇の考察に応用し、劇のテーマと演出の効果についてグループで討議し発表してもらう。普遍性と固有性についてShakespeareを理解する。後半は、映像と文学という観点から <i>The Hours</i> を扱い、Virginia Woolfという作家の問題意識と先進性に焦点を当てる。学生の知的興味を刺激して、期末にはゼミナール論文を完成し、口頭発表ができるようになる。							
到達目標	学期末に学生は、ゼミナール論文を完成し、発表ができるようになる。Shakespeareの特徴を理解し、Virginia Woolfの問題意識と先進性を把握し、①ディスカッションによって問題意識と発問のスキルを獲得できるようになる。②グループで発表できるようになる。③研究者としての倫理を踏まえ、英語のabstractを付した5,000字の論文が書けるようになる。④発問の仕方、知識を検証する習慣が身に付くようになる。							
評価方法	①ディスカッション終了時にグループ内の書記が記入しその成果を発表する(5%×3回=15%)。②学期末にグループワークの成果をプレゼンテーションする(25%:発表15%+レジュメ提出10%)。③研究者としての倫理を踏まえたゼミナール論文(5,000字程度の日本語)を学期末に提出(30%:アウトライン報告5%+ゼミナール論文の中間発表5%+提出20%)。④授業時に回収するShuttle cardに発問・知識を検証し英語で述べる(2%×15回=30%)。							
評価基準	評価基準は授業の初回に詳しく説明します。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	William Shakespeareの悲劇 <i>Othello</i> と喜劇 <i>Pericles, Prince of Tyre</i> 研究の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDの視聴
2	悲劇 <i>Othello</i> の作品研究の方向性について	①-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
3	喜劇 <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究の方向性について	①-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	<i>Othello</i> の作品研究(1)と③ゼミナール論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
5	<i>Othello</i> の作品研究(2)と③ゼミナール論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
6	<i>Othello</i> の作品研究(3)と③ゼミナール論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
7	③ゼミナール論文のアウトライン報告と研究者としての倫理構築とplagiarism	発表と質疑応答および講義	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究の 相関性について	講義とプロット・サマ リーの説明	プリント(2000wds)の下調 べおよびDVDの視聴
9	③ゼミナール論文の中間発表(全員)	発表と質疑応答および 講評	発表用の原稿作成と資料整理
10	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究 (1): 内面、特に不寛容について	講義とプロット・サマ リーの説明	プリント(2000wds)の下調 べおよびDVDの視聴
11	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究 (2): 内面、特に和解について	①-3グループ・ディス カッションと発表	ディスカッションのための要 点整理
12	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究 (3): 登場人物の成熟について	ディスカッションを踏 まえた講義	プリント(2000wds)の下調 べおよびDVDの視聴
13	②グループワークの成果の発表	発表の講評、講義と③ 論文の回収	③ゼミナール論文の提出準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	グループワークの講評とリフレクション・タ イム(学修ポートフォリオ作成)	論文の返却と公表、デ ィスカッション	学修ポートフォリオの準備

テキスト	Stanley Wells. <i>Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』(岩波新書)
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』(白水社) S. Barnet & W. Cain. <i>A Short Guide to Writing about Literature</i> (Pearson).

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	近藤 佐智子	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4208	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、英語教育							
授業の概要	私たちは、住んでいる地域、文化、年齢、ジェンダー、職業といった様々な社会的要因によって、異なる話し方をする。また、場面や相手によって巧みに話し方を変えるということも日常的に行っている。このゼミでは、主に英語と日本語について、このような社会と言語のダイナミックな関係について基礎知識を得る。社会言語学の基礎文献を読み、その内容をまとめ、発表し、ディスカッションをする力をつける。							
達成目標	社会言語学に関する基礎的知識を得ることを目標とする。社会言語学の理論やこれまでの研究内容を理解し、私たちの日々のことばの使用とどのような関係があるのかを考察する力をつける。また、得た知識を発表することによって効果的に他者に伝えることができるようになる。							
到達目標	まず日本語の文献を読むことによって、分析的な思考能力、読んだものをまとめる力、レジメを作成する力、相手に効果的に伝わる発表をする力、疑問点を追求し議論をする力をつけることを目標とする。最終的には英語で書かれた社会言語学の専門的文献を理解し、日本語で要約できることを目標とする。また、課題のレポート作成によって、文献研究の行い方を学ぶ。							
評価方法	授業時の積極参加 (20%)、発表 (30%)、レポート (30%)、要約の提出 (20%)							
評価基準	<p>授業時の積極参加 (20%) 授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量。</p> <p>発表 (30%) レジメの構成、レジメの内容が的確に要点を捉えているかどうか、発表の内容 (理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか)、発表の態度 (声の大きさ、話し方など)。</p> <p>レポート (30%) 複数の文献を読み、引用などの規則を適切に守り、論理的にレポートが構成されているか、レポートの内容が的確に要点を捉えているかどうか、自分の考えが明確に述べられているかどうか。</p> <p>課題提出 (20%) 日本語教科書各章の要約の提出 (内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか)、英語文献の要約の提出 (英語が理解できているか、内容のポイントを捉えているかどうか)。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入 (社会言語学とは、授業の運営方法、発表とレジメの作成方法、要約の仕方)	講義	教科書 1-15 頁読む
2	地域による言語の違い	学生の発表 ディスカッション	教科書 19-36 頁読み要約 発表者はレジメ作成
3	言語と社会階級	学生の発表 ディスカッション	教科書 37-51 頁読み要約 発表者はレジメ作成
4	人種、民族による言語差	学生の発表 ディスカッション	教科書 52-65 頁読み要約 発表者はレジメ作成
5	言語の性差	学生の発表 ディスカッション	教科書 66-82 頁読み要約 発表者はレジメ作成
6	言語の年齢差	学生の発表 ディスカッション	教科書 83-95 頁読み要約 発表者はレジメ作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	言語の状況差と適切さ	学生の発表 ディスカッション	教科書 96-112 頁読み要約 発表者はレジメ作成
8	呼びかけ表現・ことばによる丁寧表現	学生の発表 ディスカッション	教科書 113-140 頁読み要約 発表者はレジメ作成
9	ことばのイメージ・会話スタイル	学生の発表 ディスカッション	教科書 141-175 頁読み要約 発表者はレジメ作成
10	含意と文化・非言語伝達	学生の発表 ディスカッション	教科書 176-204 頁読み要約 発表者はレジメ作成
11	社会言語学と英語教育、英語文献の読み方、レポートの書き方、研究倫理教育	学生の発表、講義 ディスカッション	教科書 205-212 頁読み要約 発表者はレジメ作成
12	What do sociolinguists study?	英語文献精読演習 ディスカッション	英語テキスト 1-3 頁精読し要約、レポート作成
13	What are the different ways we say things?	英語文献精読演習 ディスカッション	英語テキスト 4-16 頁精読し要約、レポート作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	リフレクション(学修ポートフォリオ)	ディスカッション	レポート提出、学修ポートフォリオ記入

テキスト	田中春美、田中幸子(編著)『社会言語学への招待』(ミネルヴァ書房) J. Holmes and N. Wilson. <i>An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition</i> (Routledge).
参考書	南雅彦『言語と文化—言語学から読み解くことばのバリエーション』(くろしお出版) 真田信治(編)『社会言語学の展望』(くろしお出版)
その他 特記事項	最後の3回の授業は英語での予習・復習が必要 言語学概論を履修済か履修中が好ましい

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	近藤 佐智子	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4208	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、ポライトネス							
授業の概要	主に英語と日本語を対象に、社会と言語のダイナミックな関係を社会言語学および語用論の観点から研究する。これまでに構築されてきた理論、研究方法、研究結果について英語で書かれた文献を読み概観し、具体的な事象に照らし合わせて先行研究の妥当性についてディスカッションを行う。学期の最後には各自選択したテーマについて文献研究を行い論文にまとめる。							
達成目標	社会の中で言語がどのように使用されているのかを分析できるようになるために、社会言語学および語用論の理論および先行研究の内容を理解し、それらの研究結果が妥当であるかどうかを判断できるようになる。幅広い文献を使って研究ができるようになるために、英語で書かれた専門書を読む力をつける。各自選択したテーマについて秋学期に実証研究を行う素地を作るために、文献研究を行う。							
到達目標	英語の専門書を読み、要約や発表用レジメを作成し、内容を日本語で口頭発表することができるようになる。理論、専門用語、先行研究の内容を理解し、具体例をあげて説明やディスカッションができるようになる。各自が選択したテーマに沿った文献を探し、読み、論文の形式でまとめることができるようになる。							
評価方法	文献研究論文 (30%)、発表 (30%)、要旨の提出 (20%)、授業時の積極参加 (20%)							
評価基準	<p>文献研究論文 (30%)            複数の文献を読み、引用などの規則を適切に守り、論理的に論文が構成されているか。論文の内容が的確に要点を捉えているかどうか。自分の考えが明確に述べられているかどうか。</p> <p>発表 (30%)            レジメの構成、レジメの内容が的確に要点を捉えているかどうか、発表の内容 (理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか)、発表の態度 (声の大きさ、話し方など)。</p> <p>要旨の提出 (20%)            教科書各章の要約の提出 (内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか)。</p> <p>授業時の積極参加 (20%)            授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入 Regional and social dialects	講義、学生の発表 ディスカッション	教科書 139-166 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
2	Gender	学生の発表 ディスカッション	教科書 167-182 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
3	Age	学生の発表 ディスカッション	教科書 183-193 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
4	Ethnicity and social networks	学生の発表 ディスカッション	教科書 194-213 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
5	Language change	学生の発表 ディスカッション	教科書 214-245 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	Style, context and register: addressee, accommodation theory	学生の発表 ディスカッション	教科書 255-265 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
7	Style, context and register: class, style in non-Western societies, register	学生の発表 ディスカッション	教科書 266-292 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
8	個人研究の進め方: 文献の探し方、文献研究論文の書き方、研究倫理教育	講義、演習	個人テーマの論文作成(論文提出日まで継続)
9	Speech functions, politeness and cross-cultural communication	学生の発表 ディスカッション	教科書 293-311 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
10	Linguistic politeness in different cultures	学生の発表 ディスカッション	教科書 312-321 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
11	Gender, politeness and stereotypes	学生の発表 ディスカッション	教科書 322-345 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
12	Sexist language	学生の発表 ディスカッション	教科書 346-358 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
13	Language, cognition and culture	学生の発表 ディスカッション	教科書 359-384 頁読み日本語要約、発表者はレジメ作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	研究報告 リフレクション(学修ポートフォリオ)	学生の発表 ディスカッション	論文提出、発表準備 学修ポートフォリオ記入
テキスト	J. Holmes and N. Wilson. <i>An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition</i> (Routledge). 田中典子『はじめての論文: 語用論的な視点で調査・研究する』(春風社)		
参考書	飯野公一ほか『新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの』(くろしお出版) 岡本真一郎『ことばのコミュニケーション—対人関係のレトリック』(ナカニシヤ出版)		
その他 特記事項	英語の予習、復習が必要である。		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	近藤 佐智子	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4208	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、会話分析、実証研究							
授業の概要	ゼミナールⅠで得た社会言語学および語用論に関する知識を基に、個人で研究テーマを設定し、実際に調査研究を行い、成果を「ゼミ論文」としてまとめ、口頭でも発表する。その課程で論文の書き方、研究倫理、調査方法、分析方法、発表方法について学び、論文の完成に向けて段階的に準備を行う。							
達成目標	言語の分析能力を身に付けるために、学生は自ら実証研究を行い、その研究の妥当性や先行研究との関連を判断できるようになることを目標とする。また、他の学生の研究発表を聞き、ディスカッションをすることによって、論理的思考をし、論理的に他者を説得することができるようになる。							
到達目標	社会言語学や語用論の理論や先行研究をふまえて、実証研究ができるようになる。研究にあたっては、先行研究論文を批判的に読み、仮説が検証できるような研究計画を立て、データを分析し、その結果を先行研究結果と比較考察し、結論を導き出すことができるようになる。また、論理的に文章を組み立てて論文を書き、その内容を効果的な視覚的補助を用いて発表することができるようになり、他者の発表に対しても分析的な発言ができるようになる。							
評価方法	実証研究論文(40%)、発表(30%)、4回の発表のレジメ提出(10%)、授業時の積極参加(20%)							
評価基準	<p>実証研究論文(40%)            テーマや仮説の設定が適切か、仮説が検証できる調査方法か、データ分析が適切か、研究結果が論理的に説明できているか、研究結果を先行研究と比較して検証しているか、定められた書式にそって書かれているか。</p> <p>発表(30%)            読んだ論文の報告、中間発表(1)、中間発表(2)、最終発表、の計4回の発表            発表の内容(理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか、的確に要点を捉えているかどうか)、発表の態度(声の大きさ、話し方などが効果的か)。</p> <p>4回の発表のレジメ提出(10%)            読んだ論文の報告、中間発表(1)、中間発表(2)、最終発表、の計4回の発表のレジメ提出(内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか)。</p> <p>授業時の積極参加(20%)            授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	研究の進め方、研究論文の読み方、研究倫理教育、読んだ論文の内容発表	講義、学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究データ分析
2	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究データ分析
3	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究データ分析
4	研究中間報告発表(1)	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
5	研究中間報告発表(1)	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
6	研究中間報告発表(1)	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
7	研究中間報告発表(2) ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、ゼミ論文作成
8	研究中間報告発表(2) ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、ゼミ論文作成
9	研究中間報告発表(2) ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、ゼミ論文作成
10	最終研究発表 ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文作成
11	最終研究発表 ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文作成
12	最終研究発表	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文初稿提出
13	論文講評、論文修正	講義 論文修正	ゼミ論文の直し
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	総括 リフレクション(学修ポートフォリオ)	講義 ディスカッション	ゼミ論文最終稿提出 学修ポートフォリオ記入
テキスト	田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』(春風社) プリント『論文テーマの決定と仮説の立て方』『論文の書き方』		
参考書	『社会言語科学』社会言語科学会(学会誌)、『近藤ゼミ論文集』		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	丹木 博一	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	倫理学、平和学、人間のいのちの意味、共生							
授業の概要	人間のいのちに関する倫理的関心を深めながら、他者との平和的共生はいかにして可能かを考察する。古典を読む力を身につけ、ブックレポートを行い、互いにディスカッションを通して、テーマに関する理解を深めていく。この積み重ねによって、研究方法と発表方法を学び、文献読解、問題提起、論述の論理展開、討論に関する基礎力を身につける。							
達成目標	倫理学と平和学の分野における基本的な研究能力を身につけることが達成目標である。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業において建設的に問いを提起し、討論を繰り広げることができる。</li> <li>・平和学の古典を読む力をつけ、自ら問いを立て、研究を進めることができる。</li> <li>・研究に必要な文献を探して的確に読解し、理解内容を表現する力を身につける。</li> <li>・文献を批判的に読解し、自身の考えを自らの考えの軌跡を研究論文の形に仕上げることができる。</li> </ul>							
評価方法	授業毎の課題 (14%)、授業参画 (14%)、ブックレポート (22%)、小論文 (4,000 字以上) (50%)							
評価基準	<p>授業毎の課題：事前に指示した通りに課題を行い、提出できるかどうか。</p> <p>授業参画：積極的に授業に参加し、議論の深化発展に寄与できるかどうか。</p> <p>ブックレポート：自らの問いを練り上げ、その問いに関する適切な研究文献を選び、その文献を正しく読み解き、理解内容を分かりやすく表現するとともに、批判的に吟味し、自身の意見を提示できるかどうか。</p> <p>小論文：自らの思考の軌跡を、研究論文の形式に仕上げ、分かりやすく論述できるかどうか。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	オリエンテーション・文献検索の方法・テキスト批評の方法、ブックレポートの方法、小論文の書き方、研究倫理	講義	春休みの宿題(ブックノート)の提出、研究テーマについてのアンケート提出・文献検索
2	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「永遠平和のために」第1節を要約し、疑問点を記す。
3	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「永遠平和のために」第2節を要約し、疑問点を記す。
4	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「永遠平和のために」第3節を要約し、疑問点を記す。
5	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト②『獄中からの手紙』pp.9-43を要約し、疑問点を記す。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト②『獄中からの手紙』 pp.44-79を要約し、疑問点を 記す。
7	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト②『獄中からの手紙』 pp.80-115を要約し、疑問点を 記す。
8	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
9	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
10	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
11	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
12	論文作成のエクササイズ	講義 エクササイズ	教科書②第3章を読み、小論文 の構成を考える。
13	論文作成のエクササイズ	講義 エクササイズ	小論文の構成を書いたメモを 提出。 授業の2日後に小論文提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	小論文についてのフィードバック リフレクションタイム(学修ポートフォリオ 作成)	講義 ディスカッション	ゼミIを振り返り、身につけ たことを記す。 ポートフォリオ提出

テキスト	①カント『永遠平和のために/啓蒙とは何か 他3編』(光文社古典新訳文庫) ②ガンディー『獄中からの手紙』(岩波文庫) ③河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』(慶應義塾大学出版会)
参考書	松元雅和『平和主義とは何か』(中公新書) 篠田英朗『平和構築入門』(ちくま新書) 最上敏樹『いま平和とは』(岩波新書)
その他 特記事項	問題意識をもって主体的に授業に参画することを求める。発表の一週間前までに、必ず担当教員と入念な打ち合わせを行うこと。

科目名	SES300: ゼミナールII					担当教員	Thomas	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4211	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	peace, positive & negative peace, ethics, diplomacy, negotiation, deterrence							
授業の概要	Seminar II focuses on various issues related to fundamental human rights, ethics and peace in human society. Each student will narrow down the theme chosen for research and try to work on the problems discovered during the research presentation in Seminar I with regard to research material, research method and writing style. Students will make their research presentation twice (mid-term and final) during the semester, receive feedback, engage in discussion and deepen understanding of the content of their research. Finally, students will summarize their research and will submit it as a research paper.							
達成目標	Students in this course will deepen their knowledge of peace and ethics, improve their research method skills, enhance their presentation abilities, and learn to write a research paper.							
到達目標	By the end of this course students should have: <ul style="list-style-type: none"> <li>adequate knowledge of ways for peaceful co-existence and the importance of ethics in human life</li> <li>sufficient skill regarding methodology for ethics and peace research</li> <li>the skills to participate in a discussion critically and creatively</li> <li>the skills to do a presentation systematically using PowerPoint and prepare a brief and clear handout</li> <li>the ability to write a research report academically</li> <li>the ability to collect and analyze “data” related to the research topic</li> </ul>							
評価方法	Class Participation 25%, Essay summaries 15%, Research project presentation 15%, Final presentation of research 20%, Research report 25%							
評価基準	To be distributed at the first class.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction: course materials and policies; research ethics	Lecture, discussion, Q&A	Read syllabus
2	Research methodology: choice of topic, research questions and planning	Lecture, reading, discussion, Q&A	Read handout, prepare for discussion in class
3	Research methodology: data collection, data analysis, how to quote, footnote, bibliography	Lecture, reading, discussion, Q&A	Read handout, prepare for discussion in class
4	Traditional paths to coping with conflict and removing threat	Lecture, reading, discussion, Q&A	Read handout, prepare for discussion, essay summary 1
5	Research project presentation (seven students)	Presentation, feedback, discussion, Q&A	Prepare for presentation, prepare handout
6	Research project presentation (seven students)	Presentation, feedback, discussion, Q&A	Prepare for presentation, prepare handout
7	Research project presentation (remaining students)	Presentation, feedback, discussion, Q&A	Prepare for presentation, prepare handout
8	Alternative paths to coping with conflict	Lecture, reading, discussion, Q&A	Read handout, prepare for discussion, essay summary 2
9	Alternative paths to preventing conflicts	Lecture, reading, discussion, Q&A	Read handout, prepare for discussion, essay summary 3

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	Final presentation of research (six students)	Presentation, feedback, discussion, Q&A	Prepare for presentation
11	Final presentation of research (six students)	Presentation, feedback, discussion, Q&A	Prepare for presentation
12	Final presentation of research (six students)	Presentation, feedback, discussion, Q&A	Prepare for presentation
13	Final presentation of research (remaining students)	Presentation, feedback, discussion, Q&A	Prepare for presentation
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Conclusion; Reflection time, Submission of research paper	discussion, Q&A	submit research report

テキスト	Materials adapted from the following textbook will be used in class. Richard Smoke with Willis Harman. <i>Paths to Peace: Exploring the Feasibility of Sustainable Peace</i> (Institute of Noetic Science Westview Press).
------	---

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	森下 園	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	歴史学の作法、史料論、アカデミックスキルズ							
授業の概要	歴史学の作法と先行研究の読み方・資料の探し方、口頭発表の仕方などのアカデミックスキルズを学び、専門の文献の輪読と要約を行う。							
達成目標	先行研究の読み方、発表の仕方、質疑応答などのアカデミックスキルズを学ぶ。具体的には、①専門の論文を輪読することで、論文の構成や引用について学び、②各自が選んだ本の要約発表を通して、批判的な読み方と発表資料の作り方、発表の仕方を学ぶ。③ディスカッションや発表後の適切な発言・質問の仕方を学ぶ。							
到達目標	①論文の輪読を通して、論文の構成、言葉遣い、引用の仕方を身につける。 ②本の要約発表を通して、先行研究の批判的な読み方、ポイントのまとめ方、発表資料の作り方、発表の作法を身につける。 ③輪読、要約発表の質疑応答により、アカデミックな場での質問の仕方を身につける。							
評価方法	①論文輪読：15%×2回=30% ②本の要約発表：30% ③輪読参加・要約発表への質問：4%×10回=40%							
評価基準	①論文輪読：割り当てページの十分な予習ができているか。 ②本の要約発表：必要な下調べをしたのち、内容をレジメにまとめて結論をつけ、適切な話し方で発表をしているか。準備不足は減点となる。 ③輪読、要約発表に適切な質問や意見を出しているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	プレ・ゼミの概要説明 論文輪読の割り当てと研究倫理について	自己紹介、講義、質疑応答	輪読の準備、 要約発表の本の選定
2	論文輪読と質疑応答①	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
3	論文輪読と質疑応答②	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
4	論文輪読と質疑応答③	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
5	論文輪読と質疑応答④	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
6	論文輪読と質疑応答⑤	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
7	論文輪読と質疑応答⑥	輪読、質疑応答、解説	担当学生：輪読準備 その他学生：輪読予習
8	本の要約発表①	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表準備 ゼミ研究テーマ・資料探し

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	本の要約発表②	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備 ゼミ研究テーマ・資料探し
10	本の要約発表③	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備 ゼミ研究テーマ・資料探し
11	本の要約発表④	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備 ゼミ研究テーマ・資料探し
12	本の要約発表⑤	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備 ゼミ研究テーマ・資料探し
13	本の要約発表⑥	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備 ゼミ研究テーマ・資料探し
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ I での研究テーマ発表、リフレクションでの学修ポートフォリオ記入	テーマ発表、ポートフォリオ記入、意見交換	ゼミ研究テーマ・資料探し ポートフォリオ準備
テキスト	井上茂子「社会国家の歴史におけるナチ時代：労働者政策と福祉政策を事例にして」『上智史学』44号、1999年、89-120頁(上智大学学術情報リポジトリより入手可能) ( <a href="http://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/00000009856">http://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/00000009856</a> )		
参考書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	森下 園	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	歴史学、史資料論、論文作成作法、プレゼンテーション							
授業の概要	歴史学の論文集の要約発表を通して、先行研究の批判的な読み方を学ぶ。並行してゼミ研究のテーマを決め、参考資料や先行研究の収集を行い、ゼミ論文の構成を決めて発表する。テーマは歴史学領域のほか、ジェンダー問題・紛争解決・環境問題などの社会問題、経済・経営や業界研究などからも設定できるが、歴史的背景を織り込むか、または社会史の観点を入れるなど歴史の視点を含めた研究を行うこととなる。							
達成目標	論文集の論文要約を行うことで、史資料・先行研究の探し方、批判的な読み方、発表レジュメを用いての発表の作法を学ぶ。この要約を通して、自分の論文のテーマや構成を設定し、適切な文献・資料を選定できるようにする。また他の学生の発表を聞いて、適切な意見を出せるようにする。							
到達目標	①要約発表を通して、テーマをどのように設定し、関連する史資料を選定し、適切な構成で説明するか、その論文をどう評価するかを発表レジュメにまとめて発表できるようにする。 ②各自のテーマを設定し、参考文献を選定し、発表の構成を組み立てられるようにする。 ③発表への質疑応答の仕方を学ぶ。							
評価方法	①要約発表：30% ②ゼミのテーマ・参考文献の選定・ゼミ論文の構成発表：30% ③要約発表、ゼミテーマ発表への質疑応答：4%×10回=40%							
評価基準	①要約発表：必要な下調べ、批判的な読み方、適切なレジュメ作成、発表ができているか ②ゼミのテーマ発表：テーマと参考文献は適切であるか、構成をきちんと考えているか ③他の学生の発表に対し、積極的に質問や意見を出しているか							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ゼミの概要説明 要約発表の割り当て、研究倫理について	講義、質疑応答	要約発表準備
2	要約発表のレジュメ作成の仕方、参考文献の探し方、発表の仕方の注意	講義、質疑応答、ディスカッション	要約発表準備
3	要約発表①	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
4	要約発表②	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
5	要約発表③	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
6	要約発表④	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
7	要約発表⑤	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備
8	要約発表⑥	要約発表、質疑応答、講評	要約発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	ゼミ論文のテーマ発表①	ゼミ論文テーマ発表、 質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
10	ゼミ論文のテーマ発表②	ゼミ論文テーマ発表、 質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
11	ゼミ論文のテーマ発表③	ゼミ論文テーマ発表、 質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
12	ゼミ論文のテーマ発表④	ゼミ論文テーマ発表、 質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
13	ゼミ論文のテーマ発表⑤	ゼミ論文テーマ発表、 質疑応答、講評	ゼミ論文テーマ発表準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文のテーマ発表⑥ リフレクションと学修ポートフォリオ記入	ゼミ論文テーマ発表、質 疑応答、講評、ポート フォリオ記入	ゼミ論文テーマ発表準備 学修ポートフォリオ準備
テキスト	上智大学史学科編『歴史家の散歩道』(Sophia University Press)		
参考書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	森下 園	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	歴史学、史資料論、プレゼンテーション、論文作成							
授業の概要	ゼミⅠに引き続き、各自が選んだ研究テーマにそって個人報告を行い、内容をゼミ論文にまとめる。トピックは、歴史学などの専門領域のほか、ジェンダー問題・紛争解決・環境問題などの時事問題、経済・経営や業界研究などからも設定できるが、歴史的背景を織り込む、または社会史の観点を入れるなど歴史の視点を含めた研究を行うこととなる。							
達成目標	研究に必要な文献・資料を自ら選定して読み込み、発表レジュメを用いた研究報告として発表できるようにする。また、文献・資料を適切に引用したゼミ論文を作成できるようにする。							
到達目標	①春学期のゼミ論文テーマ発表を発展させ、レジュメを作成し、アカデミックなスタイルでの研究報告ができるようになる。②また、他の学生の発表に対する質疑応答を通して改善点を学ぶことができる。③発表内容を、文献・資料を引用し、引用註をつけたアカデミックな書式でのゼミ論文にまとめることができる。							
評価方法	①レジュメを用いた研究報告：15%×2回=30% ②報告に対する意見・質問：3%×10回=30% ③A4で10枚以上、参考文献リスト、引用註付きのゼミ論文：40%							
評価基準	①テーマが適切に設定され、必要な参考文献・資料を参照しているか、構成が適切であるか、発表レジュメが適切に作成されているか ②積極的に質問・意見を述べているか ③ゼミ論文の書式・締め切りを守り、参考文献を踏まえて自分なりの結論に至っているか							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	夏季休暇中の成果報告 研究倫理について、中間報告について	発表、講義、質疑応答	成果報告準備 中間研究準備
2	ゼミ論文の1回目中間報告①	発表、質疑応答、講評	中間報告準備
3	ゼミ論文の1回目中間報告②	発表、質疑応答、講評	中間報告準備
4	ゼミ論文の1回目中間報告③	発表、質疑応答、講評	中間報告準備
5	ゼミ論文の1回目中間報告④	発表、質疑応答、講評	中間報告準備
6	ゼミ論文の1回目中間報告⑤	発表、質疑応答、講評	中間報告準備
7	ゼミ論文の1回目中間報告⑥	発表、質疑応答、講評	中間報告準備
8	ゼミ論文の2回目中間報告①	発表、質疑応答、講評	中間報告準備 ゼミ論文執筆
9	ゼミ論文の2回目中間報告②	発表、質疑応答、講評	中間報告準備 ゼミ論文執筆

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	ゼミ論文の2回目中間報告③	発表、質疑応答、講評	中間報告準備 ゼミ論文執筆
11	ゼミ論文の2回目中間報告④	発表、質疑応答、講評	中間報告準備 ゼミ論文執筆
12	ゼミ論文の2回目中間報告⑤	発表、質疑応答、講評	中間報告準備 ゼミ論文執筆
13	ゼミ論文の2回目中間報告⑥ 定期試験期間中にゼミ論文を提出	発表、質疑応答、講評	中間報告準備 ゼミ論文執筆
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文の講評 リフレクションと学修ポートフォリオ記入	ゼミ論文の相互講評、 教員の講評、ポートフ ォリオ記入	ゼミ論文振り返り ゼミ論文加筆修正 学修ポートフォリオ準備
参考書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-③, 5-①	
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティ、言語教育政策、多文化共生							
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、基礎的な事柄を学ぶ。全員サービスラーニング活動を行うことにより、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行う。							
達成目標	本科目は、「多文化共生とバイリンガリズム」に関する知識を深め多文化共生社会の現状や課題について批判的に考える力を少しずつ養っていくことを目標とする。							
到達目標	学期の終わりには、バイリンガルの言語発達や母語保持について理解できるようになる。また、日本におけるバイリンガルの言語教育環境とキャンパスのある秦野市の環境を比較し課題を発見し、ゼミナールIでその課題を掘り下げる。							
評価方法	①授業への積極参加：30% ②口頭発表：20% ③期末レポート：50%							
評価基準	①授業への積極参加：自分とは異なる他者の意見を理解しようとしているかどうか。具体的、建設的な意見を述べることで、問題解決に向けた討議の活性化に貢献したかどうかを評価する。 ②口頭発表：対象のライフストーリーを複眼的に分析できているかを評価する。 ③期末レポート：バイリンガルの言語発達やことばとアイデンティティの問題を分析し、表現できているかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	移動する時代と子どもたち	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト全体に目を通す。キーワード(11頁)を調べる。
2	日本で日本語を学ぶ子どもたち	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト15頁のキーワードについて予習する。
3	ことばの学びとことばの力	講義、グループディスカッション、質疑応答	コラム1(18頁)を読む。
4	海の向こうで日本語を学ぶ子どもたち	講義、グループディスカッション、質疑応答	コラム2(24頁)とキーワード(27頁)を予習。
5	ことばとアイデンティティ	講義、グループディスカッション、質疑応答	コラム3(29~30頁)とキーワード(31頁)を予習。
6	それぞれの「日本語」	講義、グループディスカッション、質疑応答	キーワード(36頁)を読み理解する。
7	複数のことばの中で育つということ	講義、グループディスカッション、質疑応答	キーワード(41頁)を予習。言語ポートレート作成。
8	社会の中で育つことば	講義、グループディスカッション、質疑応答	キーワード(45頁)を読む。
9	子どもたちのことばとことばの学び	講義、グループディスカッション、質疑応答	キーワード(49頁)を読む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	ライフストーリーを解釈する「ナムさん」	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト(62~67頁)を読んで68頁の問いに答える。
11	ライフストーリーを解釈する「マクマイケルさん」	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト(70~74頁)を読んで76頁のグラフ作成。
12	ライフストーリーを解釈する	講義、グループディスカッション、質疑応答	テキスト(80~84頁)を読んで85~86頁の表を書く。
13	ライフストーリーを聴く・書く	講義、グループディスカッション、質疑応答	キーワード(89、95頁)を読む。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	全体のまとめ、ライフストーリーの発表①	講義、グループディスカッション、質疑応答	発表準備

テキスト	川上郁雄・尾関史・太田裕子『日本語を学ぶ／複言語で育つ 子どものことばを考えるワークブック』(くろしお出版) 宮崎幸江『日本に住む多文化の子どもと教育—ことばと文化のはざままで生きる』(ぎょうせい出版)
その他 特記事項	コミュニティフレンドあるいは、カレッジフレンドなどのサービスラーニングに参加する。 春学期に「SL入門講座」を履修しなかった学生は秋学期に履修する。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	飯田 純也	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4216	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	物語、研究、研究倫理、経済成長、資本主義、国家、企業、格差、世界大戦、冷戦							
授業の概要	歴史は勝者によって書かれるという。しかし古代アテネの詩人は、勝者の側でありながら、敗者の立場から悲劇を描く。物語研究をはじめると、物語が必要とされる現代の状況を概観する。この作業を通して、各自問題意識と歴史意識を明確化することになる。資料は映像資料を中心に使う。授業は毎回グループワーク主体で行う。							
達成目標	Semester前半では、映像資料を見てもらい、問題発見・問題解決に向け、グループで情報を収集したり評価したり編集したりしながら、協調性、積極性、自己管理、問題発見能力、問題解決能力を身につける。後半では、物語の内容を理解する語学力と、物語の世界を分析的、批判的、論理的に説明する思考力の獲得を目指す。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リサーチの方法を身につけることができる</li> <li>2. 協調性、積極性、自己管理能力を身につけることができる</li> <li>3. 問題発見能力、問題解決能力を身につけることができる</li> <li>4. 問題意識と歴史意識を持って、人間のゲーム性を批判的に見ることができる</li> <li>5. 人文科学、社会科学を学ぶ動機を得ることができる</li> <li>6. 自らの洞察、分析、推理、仮説を根拠付けて説明することができる</li> </ol>							
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業参加は毎回のシャトルカードとグループワークの内容 (40%)</li> <li>2. 中間レポートとペアワークの内容 (60%)</li> </ol>							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション 研究倫理	自己紹介、講義	自己紹介準備
2	大きく問うことではじめる(1) 問題意識: 経済「世界の成長は続くのか」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
3	大きく問うことではじめる(2) 問題意識: 経済「国家 vs 超巨大企業」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
4	大きく問うことではじめる(3) 問題意識: 経済「巨大格差」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
5	教訓を語ろう(1) 学問の基盤: 歴史「第1次世界大戦」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
6	教訓を語ろう(2) 学問の基盤: 歴史「大戦間時代」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
7	教訓を語ろう(3) 学問の基盤: 歴史「第2次世界大戦」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
8	教訓を語ろう(4) 学問の基盤: 歴史「冷戦」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
9	教訓を語ろう(5) 学問の基盤: 歴史「1960年代」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	教訓を語ろう（6） 学問の基盤: 歴史「21世紀」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
11	個人研究オリエンテーション 歴史主義批判	講義、ペアワーク	個人研究テーマ決定に向け文献リサーチ
12	文献研究指導（研究倫理） 個人研究	講義、ペアワーク	個人研究テーマ決定に向け文献リサーチ
13	文献研究指導 中間レポート提出、シャトルカード返却	講義、ペアワーク	文献リサーチ、中間レポートの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	リフレクション・タイム、中間レポート講評、 学修の振り返り	講評、学修ポートフォリオ記入	シャトルカードの振り返りを行う

テキスト	この授業では教材として以下の映像作品を紹介します。NHK「マネー資本主義」（2012年） NHK「新映像の世紀」（2015年）		
参考書	Gardner, Dan. <i>Future Babble: How to Stop Worrying and Love the Unpredictable</i> (Virgin Books).		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	飯田 純也	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4216	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	文学、倫理、ゲーム、教育、メディア、社会、性、法律、科学、政治、戦争、国家							
授業の概要	このゼミでは、人文及び社会科学の諸問題を研究する準備として、広義の文学作品の研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。履修者は自分のテーマを自ら設定し、作品の分析、解釈を行い、研究成果を研究レポート（和文 5,000 字）にまとめる。研究レポートを仕上げる前に、中間発表（30 分質疑応答含む）を行い、他者の意見、助言を取り入れ、中間レポート（和文 2,000 字）を提出する。中間発表予定の前にテーマ発表を行い、発表当日他の履修者から建設的質問を引き出すように配慮する。							
達成目標	達成目標は、自ら選んだテーマについて、文学作品の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。							
到達目標	1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる 2. 上の 1 をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる 3. 上の 1 と 2 をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる							
評価方法	1. 中間発表は 30%、2. 中間レポートは 30%、3. ゼミ参加状況、特に他の学生の発表時の積極的関与が 40%							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	オリエンテーション 文学と倫理学	講義、質疑応答、グループワーク	事前に研究テーマの候補を複数考える
2	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Contemporary Ethical Controversies	講義、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート
3	Contemporary Ethical Controversies 個人研究に向け主題、目的、方法の決定	講義、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート
4	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Chapters 2-5	学生発表、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート
5	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Chapters 6-11	学生発表、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート
6	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Chapter 12: A Perspective on History	学生発表、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート
7	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> ディスカッション	ディスカッション、講評	テキストを読み、質問を用意、中間発表の準備
8	<i>Political Philosophy</i> Chapters 1-5	学生発表、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート、中間発表の準備
9	<i>Political Philosophy</i> Chapter 6: Feminism and Multiculturalism	学生発表、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート、中間発表の準備
10	<i>Political Philosophy</i> Chapter 7: Nations, States, and Global Justice	学生発表、質疑応答、グループワーク	テキストを読み、筋と要点をノート、中間発表の準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	<i>Political Philosophy</i> ディスカッション	ディスカッション、講評	テキストを読み、質問を用意、中間発表の準備
12	文献研究指導、中間発表と中間レポートの提出、研究倫理教育	講義、ペアワーク	文献リサーチ、中間発表の準備
13	文献研究指導、中間発表と中間レポートの提出、シャトルカード返却	講義、中間発表、質疑応答	中間発表の準備、中間レポートの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	中間レポート講評、学修の振り返り	講評、学修ポートフォリオ記入	シャトルカードの振り返りを行う

テキスト	1. Ruggiero, Vincent Ayan. <i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> (McGrow-Hill). 2. Miller, David. <i>Political Philosophy: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
参考書	1. Binmore, Ken. <i>Game Theory: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). 2. Ruthven, Malise. <i>Islam: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	飯田 純也	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4216	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	文学、倫理、ゲーム、教育、メディア、社会、性、法律、科学、政治、戦争、国家							
授業の概要	このゼミでは、人文科学及び社会科学の諸問題を研究する準備として、広義の文学作品の研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。同時に、履修学生は個人研究を自ら設定したテーマで行う。文献資料の分析、解釈を行い、研究成果をゼミ論文(日本語 4,000字以上)にまとめる。							
達成目標	達成目標は、英語文献を読解できる能力と、自ら選んだテーマについて、文献資料の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる</li> <li>2. 上の1をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる</li> <li>3. 上の1と2をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる</li> <li>4. 英語文献を使い、文献研究をすることができる</li> </ol>							
評価方法	1. ゼミ論文中間・直前発表 30%、2. ゼミ論文 40%、3. ゼミ参加状況 30%							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	科学を相対化: ゼミ論文は科学的ではなく解釈学・修辞学・文献学的	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト予習 pp. 7-51
2	研究態度を見直す: 文化消費から文化批判 <i>Hannah Arendt (film) (2012)</i>	講義、ペアワーク、ディスカッション	課題映画を視聴し、要点を下調べ
3	情報をどう収集するか?	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト予習 pp. 52-70
4	情報をどう整理するか?	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト予習 pp. 71-105
5	情報を整理してプレゼンテーションする	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト予習 pp. 106-122
6	文章としてどうまとめるか?	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト予習 pp. 123-146
7	卒論の様式マニュアル ゼミ論文中間発表 (Group 1)	講義、ペアワーク、ディスカッション、発表	テキスト予習 pp. 147-195 ゼミ論文発表準備
8	ゼミ論文中間発表 (Group 2)	学生発表、質疑応答、講評	ゼミ論文発表準備
9	ゼミ論文中間発表 (Group 3)	学生発表、質疑応答、講評	ゼミ論文発表準備
10	ゼミ論文直前発表 (Group 4)	学生発表、質疑応答、講評	ゼミ論文発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	ゼミ論文直前発表（Group 5）	学生発表、質疑応答、講評	ゼミ論文発表準備
12	研究倫理教育 ゼミ論文の提出	講義、質疑応答、ディスカッション	ゼミ論文提出準備
13	ゼミ論文の返却と講評 再提出の案内	講義、質疑応答、ディスカッション	ゼミ論文再提出準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	リフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）	学生発表、質疑応答、講評、個人指導	学修ポートフォリオの作成準備

テキスト	榎木 伸明著『卒論を書こう—テーマ探しからスタイルまで』（三修社）
参考書	バルバラ・スコヴァ主演『ハンナ・アーレント』（映画）（ポニーキャニオン）

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	神谷 雅仁	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4215	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	英語力の向上、アカデミック・スキルズの鍛錬、言語学に関する学び、自己研究の基礎							
授業の概要	本講は言語学の分野に関する基礎的な知識の習得、英語力の向上、アカデミック・スキルズのトレーニングという3つの大きな柱から構成されている。学生たちは英語で書かれたテキストの担当チャプターをレジюмеにまとめ、口頭発表をすることで言語学に関する諸々の基本的概念を理解し、同時に言語研究には不可欠となる英語力を英字新聞などの記事を利用しながら高めていく。また、大学レベルで必要とされる様々な技能の鍛錬も行っていく。							
達成目標	学生たちはチャプター・プレゼンテーションを通し、発表の仕方やレジюмеの作り方、また発表後のディスカッションの仕方を学び、実践する。同時に学生たちは英語で書かれたテキストを通し、専門的な内容を英語で読むということへの慣れができる。また英字新聞や雑誌の記事を使い chunk-reading や chunk-writing、和訳や reaction を書くなどの言語活動をする中で英語力の底上げも可能となる。そして次年度のゼミⅠ、Ⅱで扱うことになる社会言語学をはじめとする言語学の領域を概観することで、この分野の基礎固めが可能となる。							
到達目標	学生たちはプレゼンテーションに向けた準備を通し、英語で書かれたテキストをまとめ、レジюмеを作成することができるようになる。ディスカッションについても、聞き手として単なる意見交換をするのではなく、発表の内容をクリティカルにとらえ、自らの意見や見解を発表者にわかりやすく伝えられるようになる。英語学習に関しては、英語の文構造や語の配列を徹底的に学ぶことで、英語の読解力が向上する。最後に、チャプタープレゼンテーションとチャプターサマリーを通し、言語学の分野の全体像および個別の理論や考え方についての理解を深め、その後の自己研究へとつなげられるようになる。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の課題：20%</li> <li>ポキャブラリー・クイズ：20%</li> <li>チャプター・プレゼンテーション（口頭発表）&amp; その後のディスカッション：20%</li> <li>チャプター・サマリー（当該チャプターの要約）：20%</li> <li>学期末レポート：20%</li> </ul>							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の課題：英語で書かれた新聞や雑誌等の記事を題材に、読む、書く、和訳、ポキャビルの総合的言語学習が毎週課せられ、十分な量と回数が実行できたかどうか問われる。</li> <li>ポキャブラリークイズ：TOEIC Test 用の頻出 vocabulary 学習が日々課せられるが、その理解、定着がなされているかが問われる。</li> <li>プレゼンテーション：自らが担当するチャプターの内容がわかりやすく、また大学レベルにふさわしいかたちでまとめられているか（概念や理論を含めた用語の定義が言語例とともに説明されているか、レジюмеの基本的な書き方に沿っているか、著者による見解と自分の考えが明確に区別されているか、参考文献リストがあるかどうか等）が問われる。</li> <li>サマリー：発表者以外は全員その週の発表チャプターを読み、そのサマリーを提出することが課せられる。提出回数およびセクションごとのサマリイの出来によって評価される。</li> <li>学期末レポート：自分がプレゼンテーションで扱ったテーマについて、さらに文献を読み、より深いあるいは広いスコープでレポートに仕上げられているかが問われる。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Course overview	Lecture, discussion	Read the first section of the textbook
2	On Pre-seminar: Introduction Talking about learning academic skills 研究倫理について	Lecture, discussion, group work, doing exercises, voc. quiz	Review the handout, Start the assignments, vocabulary
3	What is Linguistics? 言語学とは	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 1): read and write a summary
4	How English Has Changed over the Centuries <History of English> 英語の歴史	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 2): read and write a summary
5	The Sounds of English <Phonetics and Phonology> 言語音	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 9): read and write a summary, vocabulary
6	How Words Are Made <Morphology> 語形成	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 3): read and write a summary
7	How Words Mean <Semantics 1> 語の意味	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 4): read and write a summary, vocabulary
8	How English Phrases Are Formed <Syntax 1> 句構造・文構造	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 5): read and write a summary
9	How Sentences Mean <Semantics 2> 句・文の意味	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 7): read and write a summary
10	How to Communicate with Other People <Pragmatics> 発話の意味	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 8): read and write a summary, vocabulary
11	Regional Varieties of English: <Sociolinguistics 1> 地域方言	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 10): read and write a summary
12	English in Society <Sociolinguistics 2> 社会方言	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 11): read and write a summary, vocabulary
13	How English is Acquired <Psycholinguistics> 言語習得	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 12): read and write a summary
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Course review / Reflection Time 学修ポートフォリオ記入	Students' reflection and Write the portfolio	Review of the course 学修ポートフォリオ作成

テキスト	影山太郎、ブレント・デ・シェン、日比谷潤子 (著). <i>First Steps in English Linguistics</i> (くろしお出版).
参考書	長谷川瑞穂 (編著) 『はじめての英語学』 (研究社) 飯野公一ほか (著) 『新世代の言語学』 (くろしお出版)
その他 特記事項	「言語学概論」の科目を履修済みか同時履修が望ましい。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	神谷 雅仁	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4215	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	社会言語学、言語バリエーション、社会方言、地域方言、言語使用、バイリンガリズム							
授業の概要	本講では専門書を英語で読む、自己研究テーマに沿って発表をする、様々な言語事象についてディスカッションをする、専門分野に関するレポートを作成するなどのアカデミック・スキルズ修練のための活動を、社会言語学という専門分野の内容を題材に行っていく。学期前半は社会言語学に関する指定テキストを輪読しながら、多言語社会や言語政策、また言語使用とそのバリエーションなどのテーマについて学び、後半は社会言語学の分野から各自がテーマを選択し、そのテーマに沿って文献を調べ、まとめ、そして発表を行っていく。							
達成目標	本講の掲げる目標のひとつは大学という場での学問や専門的な研究を始めるために必要とされる様々なアカデミック・スキルズの鍛錬であり、学生たちは各自 2 回の発表を通して、自分が理解した内容や得た知識を相手に分かりやすく伝えることができるようになる。同時に社会言語学的な視点から自分たちの母語や学習言語についての理解を深め、最終的には自己研究へ向けたテーマ設定や問題提起ができるようになる。							
到達目標	本講における発表を通して、学生は意見の整理の仕方、レジユメの作成、効果的な発表の方法、先行文献の使い方、発表後のディスカッションや質疑応答の進め方などについて学び、それらを的確に実践できるようになる。また言語を社会的な視点から考察し、それを自らの生活や経験という文脈の中で捉えられるようになる。さらに学期末レポートを作成する中で、先行研究の重要性や自らの意見・主張の大切さ、文献を批判的に読む力、文献リストの書き方などを学び、それらの観点をレポート作成に活かせるようになる。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表 1 (Textbook <i>Sociolinguistics</i> by Romaine) : 20%</li> <li>発表 2 (自己研究テーマ) : 20%</li> <li>授業参加・提出物 (Post-presentation discussion, chapter summary) : 15%</li> <li>学期末レポート (Term paper) : 25%</li> <li>Article Note : 20%</li> </ul>							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表 1, 2 では、発表の進め方、レジユメの出来、先行研究の扱い、文献の示し方、そしてディスカッション時の質問に対する受け答えの適切さなどが評価される。</li> <li>授業参加は発表後のディスカッション時に、オーディエンスとして発表者にどのようなフィードバックを返すことができるかに着目し、特に分析的、批判的な視点をともなうフィードバックには高い評価が与えられる。提出物は主に <b>chapter summary</b> を指すが、これはボーナスポイントとして、その内容の出来によって評価される。</li> <li>学期末レポート (Term paper) は自己研究テーマについて第二回目の発表内容をもとに、それを自らの論点や問題提起を含めたレポートの体裁にまとめ、提出期限内に提出できたかどうか評価される。</li> <li>Article Note は各エントリーに必要な言語活動がすべて含まれており、設定された回数のエントリー数が達成できている状態で提出期限内に提出できたかどうか評価される。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview 研究倫理について Chapter presentation: 1. The social study of language 発表およびディスカッション	Lecture, Students' presentation, post-presentation discussion	Textbook (chapter 1): read the chapter and try to understand its gist
2	Chapter presentation: 2. The ethnography of speaking and the structure of conversation 発表およびディスカッション	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 2): read the chapter and try to understand its gist
3	Chapter presentation: 3. Locating variation in speech 発表およびディスカッション	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 3): read the chapter and try to understand its gist
4	Chapter presentation: 4. Styles, gender, and social class 発表およびディスカッション	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 4): read the chapter and try to understand its gist
5	Chapter presentation: 5. Bilinguals and bilingualism 発表およびディスカッション	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 5): read the chapter and try to understand its gist
6	Chapter presentation: 6. Societal multilingualism 発表およびディスカッション	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 6): read the chapter and try to understand its gist
7	Chapter presentation: 7. Applied sociolinguistics 発表およびディスカッション	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 7): read the chapter and try to understand its gist
8	自己研究テーマに関する発表およびディスカッション Group 1	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表準備および発表内容の復習 期末レポート準備
9	自己研究テーマに関する発表およびディスカッション Group 2	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表準備および発表内容の復習 期末レポート準備
10	自己研究テーマに関する発表およびディスカッション Group 3	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表準備および発表内容の復習 期末レポート準備
11	自己研究テーマに関する発表およびディスカッション Group 4	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表準備および発表内容の復習 期末レポート準備
12	自己研究テーマに関する発表およびディスカッション Group 5	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表準備および発表内容の復習 期末レポート準備
13	自己研究テーマに関する発表およびディスカッション Group 6	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表準備および発表内容の復習 期末レポート準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Course review Reflection Time 学修ポートフォリオ記入	Lecture, discussion, Group work	Work on the term paper 学修ポートフォリオの記入

テキスト	Spolsky, B. <i>Sociolinguistics</i> (Oxford U.P.).
参考書	東照二『社会言語学入門』(研究社)
その他 特記事項	「言語学概論」「社会言語学」といった言語学関連の科目を単位取得していることが望ましい。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	神谷 雅仁	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4215	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	社会言語学、言語バリエーション、言語と年齢、Genderlect、地域方言、外来語使用							
授業の概要	ゼミナールⅠで基本的なアカデミック・スキルズのトレーニングと社会言語学の分野に関するテーマの絞り込みを終えた学生たちは、ゼミナールⅡで本格的に自己研究を開始する。最終目標であるゼミ論文の作成に向け、学生たちは学期中に計3回の発表(2回の中間報告と1回の最終発表)を行いながら、自らの研究を進めていく。毎回の授業は3~4名の学生の発表とディスカッションで構成され、最後にひとり一人に対し、担当教員よりフィードバックがなされる。							
達成目標	本講では学びの集大成としてゼミ論文の作成を課しているが、学生たちは自らの自己研究に必要な様々な知識やスキルを専門書の読書や授業内での発表などを通じて修得する。同時に原則、論文のテーマを言語学関連の内容に限定しているため、言語に関する高い専門性、および研究手法を身に着けることができる。							
到達目標	本講を通して学生はゼミ論文作成という大きな目標を掲げ、それを達成するため計画的にそして確実に必要な作業を進めていくことができるようになる。具体的には先行研究の収集、論文構成の決定(仮説やデータ収集法)、実際のデータ収集、そして実際の執筆作業など論文完成までの長い工程の中をひとつずつのステップを着実に踏み、最終的に自らの計画した目標を達成することができるようになる。同時にゼミ論文の作成や発表の機会を通し、自らのテーマ設定の仕方や先行研究の重要性について学ぶ一方で、既存の主張や考え方に対して批判的な視点も養われていく。							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ論文：50%</li> <li>発表(3回)およびディスカッション：30%</li> <li>授業参加：20%</li> </ul>							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ論文：提出された論文が、全体の構成を含め一つの論文として成り立っているか。つまり授業内で学んだことが活かされたかたちで論文が完成しているかどうか。</li> <li>発表：自らの研究内容を口頭、そしてレジュメを用いてわかりやすく説明しているか、また研究内容に関して質問された際、過不足なく答えているか、など。</li> <li>授業参加：聴衆(オーディエンス)として発表者の発表内容に対してコメントや質問を含めたフィードバックを返しているかどうか、またそのフィードバックの内容が発表者に対して建設的であり、示唆を与えるものであり、そして批判的であるかどうか問われる。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview ゼミ論文について、研究倫理について 「ゼミ論文の基本構成」提出	講義、ディスカッション、SAMPLE提示	ゼミ論文についてのテーマ決め、ハンドアウト確認、「ゼミ論文の基本構成」準備
2	第1回プレゼンテーション Group 1 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
3	第1回プレゼンテーション Group 2 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
4	第1回プレゼンテーション Group 3 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
5	第1回プレゼンテーション Group 4 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
6	第1回プレゼンテーション Group 5 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
7	第1回プレゼンテーション Group 6 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
8	第2回プレゼンテーション Group 1 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
9	第2回プレゼンテーション Group 2 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
10	第2回プレゼンテーション Group 3 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
11	第2回プレゼンテーション Group 4 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
12	第2回プレゼンテーション Group 5 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
13	第2回プレゼンテーション Group 6 (自己研究テーマに関する発表および質疑応答)	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Course review and Reflection Time ゼミ論文作成準備 学修ポートフォリオ作成	講義、グループワーク、ディスカッション	振り返り・総括、ゼミ論文作成準備、学修ポートフォリオ

テキスト	テキストは使用せず、各回の発表者が配布する発表用レジュメ、および教員の準備する関連テーマについての配布物を使用する。
参考書	東照二『社会言語学入門』(研究社) 浜田麻里、平尾得子、由比紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)
その他特記事項	「言語学概論」「社会言語学」といった言語学関連の科目を単位取得していることが望ましい。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	T. Gould	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4209	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	Literature, Culture, Linguistics, Second Language Acquisition, Gender, Law, Economics, Environment							
授業の概要	This seminar focuses on developing the academic skills necessary to explore and express issues in the liberal arts. In Seminar 1, students will continue to develop research skills by practicing how to define and research topics. These topics will form the basis for discussions, presentations, and papers. Through peer exchanges, students will practice persuasive speech and writing while developing strong opinions. A focus on discussing issues, making presentations, and writing reports will continue. Students will learn to identify and compare different aspects of their topics, including values, behaviors and beliefs. Also, in Seminar 1, students will learn how to talk about, understand in detail, and compare different areas of the liberal arts.							
達成目標	Students in this course will: * gain an in-depth understanding of a variety of issues in the liberal arts * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills * develop critical thinking skills							
到達目標	By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of the topics they have explored during the course. Additionally, they should be able to participate in English discussions based on the issues studied. In a discussion of this type, they should be able to use appropriate technical terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of their topics.							
評価方法	Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25%							
評価基準	Class participation: display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; Presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Developing skills in Liberal Arts: Critical thinking, summarizing	Short lecture, pair work discussion	Review of independent learning and liberal arts
2	Poetry; Oral presentation	Short lecture, pair work discussion	Choose topic for short presentation (instr. Approves)
3	Preparing for presentations: target audience, thesis statement, listening skills	Short lecture, pair work discussion	Outline for presentation
4	Analyzing literature: Ernest Hemingway short story	Short lecture, pair work discussion	Read 'The end of something'; prepare discussion questions
5	Short Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Give presentation; group discussion	Complete reaction & question form for peers' presentations
6	Short Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Short discussion and Presentation 1	Complete reaction & question form for peers' presentations
7	Developing reading habits: six skills; 'Blind Men and the Elephant'	Short lecture, pair work discussion	Read and analyze 'The Blind Men and the Elephant'

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	Continuing with autonomous learning and developing a 'liberal arts' practice of study	Short lecture, pair work discussion, report writing practice	Handout: 'What is a Liberal Education?'
9	Enlightenment thinking: 'The Bill of Rights'; Major themes of the Age of Enlightenment	Short lecture, pair work discussion	Read handout 'The Bill of Rights'
10	Developing strong arguments and clear opinions; evaluating and persuading	Short lecture, pair work discussion	Read Part 2 of Article about logical fallacies.
11	Simile and metaphor; Robert Frost, 'The Road Not Taken'	Short lecture, pair work discussion, report writing practice	Read 'The Road Not Taken'; Peer edit partner's presentation outline
12	Individual Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Give presentation 2; group discussion	Complete reaction & question form for peers' presentations
13	Individual Presentation (topic determined in consultation with instructor) & Reflection Time (writing learning portfolio)	Give presentation 2; group discussion	Complete reaction & question form for peers' presentations
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Final group discussions covering class readings, presentations and lectures	Concluding lecture and group discussion	Review semester class notes, presentations, and readings
テキスト	Handouts and articles to be distributed by instructor		

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	T. Gould	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4209	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	Literature, Culture, Linguistics, Second Language Acquisition, Gender, Law, Economics, Environment							
授業の概要	This seminar focuses on developing the academic skills necessary to explore and express issues in the liberal arts. In our first semester, students will learn how to define and research a topic. These topics will form the basis for discussions, presentations, and papers. Through peer exchanges, students will learn a variety of approaches to different topics. The basic ideas and terms necessary to discuss issues, make presentations, and write reports about them will be learned. Students will learn to identify and compare different aspects of their topics, including values, behaviors and beliefs. Also, in pre-zemi, students will learn how to talk about and understand in detail, and compare different cultures in terms of communication, the education system, the workplace, and family life.							
達成目標	Students in this course will: * gain an in-depth understanding of a variety of issues in the liberal arts * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills * develop critical thinking skills							
到達目標	By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of the topics they have explored during the course. Additionally, they should be able to participate in English discussions based on the issues studied. In a discussion of this type, they should be able to use appropriate technical terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of their topics.							
評価方法	Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25%							
評価基準	Class participation; display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; Presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Developing skills in Liberal Arts; reasoning, evaluation, synthesis	Short lecture, pair work discussion	Review of independent learning and liberal arts
2	Formulating an understanding of the process of learning	Short lecture, pair work discussion	Choose topic for short presentation (instr. Approves)
3	Identify and evaluate different ways of knowing; ifinding strengths and weaknesses of each	Short lecture, pair work discussion	Outline for presentation
4	Analyzing literature: James Joyce short story; making connections between disciplines	Short lecture, pair work discussion	Read 'Eveline'; prepare discussion questions
5	Short Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Give presentation; group discussion	Complete reaction & question form for peers' presentations
6	Short Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Short discussion and Presentation 1	Complete reaction & question form for peers' presentations
7	Analyzing interactions between individuals and community	Short lecture, pair work discussion	Choose topic for individual presentation and final paper

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	‘Liberal Education is Moral Education’; Liberalism as a political philosophy	Short lecture, pair work discussion, report writing practice	Brainstorm in small groups about each member’s topic; Read ‘Liberal Ed. Is Moral Ed.’
9	‘The Samurai’s Daughter’; folk tales and culture	Short lecture, pair work discussion	Presentation rough outline 1, Read ‘The Samurai’s Daughter’
10	Review of logical fallacies; political arguments; finding, analyzing and repairing ‘weak’ arguments	Short lecture, pair work discussion	Read Part 3 of Article about logical fallacies.
11	‘The Sun Dance’ and ‘Coyote Goes to the Land of the Dead’; Folk Tales continued	Short lecture, pair work discussion, report writing practice	Read ‘The Sun Dance’ and ‘Coyote Goes to the Land of the Dead’
12	Individual Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Give presentation 2; group discussion	Complete reaction & question form for peers’ presentations
13	Individual Presentation (topic determined in consultation with instructor) & Reflection Time (writing learning portfolio)	Give presentation 2; group discussion	Complete reaction & question form for peers’ presentations
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Final group discussions covering class readings, presentations and lectures	Concluding lecture and group discussion	Review semester class notes, presentations, and readings
テキスト	Handouts and articles to be distributed by instructor		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	C. Oliver	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4205	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	multiculturalism, research skills, presentation							
授業の概要	Building upon what students learned in the Pre-seminar, in this course students will investigate various key issues related to multiculturalism. These may include, for instance, illegal immigration, ethnic identity, religious intolerance, racism, language laws, and multicultural education. Through independent study and presentations during the semester, students will develop their research and academic presentation skills.							
達成目標	Students will learn to summarize, organize, present, and ask questions about information that they have found in books and other sources. They will also improve their ability to discuss their own study / career interests.							
到達目標	By the end of the semester, students will be able to summarize both general and specific information about an issue and about that issue in a specific country; ask good questions to guide their own future study of an issue; prepare a well-organized outline for a presentation; do a well-organized 7-10 minute presentation with good delivery; discuss their own study / career interests in relation to specific universities / companies that they would like to enter.							
評価方法	Participation (45%), Written work, including presentation handouts (20%), Presentations (35%).							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Participation: active involvement in everyday discussions and other class activities; effort to regularly use English; shows improvement in ability to discuss study / career interests;</li> <li>• Written work: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, summarizes both general and focused information, well organized, includes appropriate study questions;</li> <li>• Presentations: appropriate topic, appropriate length, summarize both general and specific information, well organized (following outline and including a preview), include appropriate study questions, demonstrate good delivery (eye contact, voice, etc.).</li> </ul>							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Orientation: perspectives on multiculturalism. Explanation of Presentations #1 and #2.	explanation by teacher, small-group discussion	Read syllabus carefully. Review presentation explanation.
2	Talking / writing about one's study / career interests (with follow-up in class 6). Review: research basics / ethics.	lecture, small-group discussion	Review class notes, begin preparing for presentation. Write presentation Topic Sheet.
3	Presentation #1. Topics: (1) Immigration and (2) Identity.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
4	Presentation #1. Topics: (3) Religion and (4) Attitudes / Ideologies.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
5	Presentation #1. Topics: (5) Policies / Laws and (6) Social Action and Organizations.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
6	Asking good questions for research. Discussing one's study / career interests (follow-up from class 2). Explanation of Presentation #3.	lecture, small-group discussion, individual guidance from teacher	Review class notes, prepare written statement of study / career interests.
7	Presentation #2. Topics: (1) Immigration, (2) Identity, and (3) Religion.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	Presentation #2. Topics: (4) Attitudes / Ideologies, (5) Policies / Laws, and (6) Social Action and Organizations.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
9	Research basics / ethics: using information from sources (avoiding plagiarism). Discussion of research progress for Presentation #3.	lecture, small-group work	Review class notes. Write Reading Report (on material related to Presentation #3).
10	Presentation preparation. Discuss research progress for Presentation #3.	small-group discussion, individual guidance	Write presentation Topic Sheet. Write Reading Report (on material related to Presentation #3).
11	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
12	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
13	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Reflection Time (portfolio). Remaining presentations, if any. Recap of Spring semester; planning for Fall semester (including Seminar II Research Project Topic sheet).	explanation by teacher, small-group discussion	Review class notes, handouts.

テキスト	None. To prepare for presentations, students will select their own materials to read.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	C. Oliver	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4205	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	multiculturalism, independent research project, presentation, report							
授業の概要	In this course, each student will do an independent research project on a topic related to multiculturalism. For this, students will choose their own topic, think of their own research question, and find related books and other materials to read. In addition to two short presentations, each student will also do a longer final presentation and write a report about her research findings.							
達成目標	Students will develop their ability to do an independent research project and to discuss their study interests.							
到達目標	By the end of this course, students should be able to: <ul style="list-style-type: none"> <li>• formulate a suitable question for an independent research project;</li> <li>• conduct reading-based research focused on that research question;</li> <li>• summarize key information related to the research topic;</li> <li>• describe and analyze “data” related to the research topic;</li> <li>• organize information in a manner suited to a research report;</li> <li>• explain one’s study interests in relation to ideas and information learned from books or other materials.</li> </ul>							
評価方法	Participation (25%), Homework (25%), Presentations (25%), Report (25%).							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Participation: active involvement in discussions and other everyday class activities, effort to regularly use English, effort to explain one’s study interests in relation to ideas and information learned from books or other materials;</li> <li>• Homework: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, summarizes key information related to the research topic;</li> <li>• Presentations and Report: suitability of research question; evidence of research focused on the research question; summarizing of information related to the research topic; description and analysis of “data” related to the research topic; organization of information.</li> </ul>							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Overview of Fall semester. Discuss Research Project Topic prepared by each student. Explanation of presentation #1.	explanation by teacher, small-group discussion	Prepare “Research Project Topic” document in advance.
2	Talking / writing about one’s studies, school life, and future vision. Explanation of Presentation #2.	explanation by teacher, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare SOP worksheet.
3	Short presentation #1: your independent research topic.	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
4	Short presentation #1: your independent research topic.	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
5	Short presentation #2: describing and analyzing “data.”	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
6	Short presentation #2: describing and analyzing “data.”	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
7	Short presentation #2: describing and analyzing “data.” Explanation of final presentation.	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
8	Organizing your final Seminar report. Review research basics / ethics: avoiding plagiarism.	lecture, small-group work	Review handouts provided in class.
9	Writing an Introduction (including “thesis statement”) and Conclusion.	lecture, small-group work	Review handouts provided in class.
10	Prepare for final presentation, final Seminar report	individual guidance from teacher	Write draft of presentation outline.
11	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
12	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
13	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Reflection Time (portfolio), recap of semester. Remaining presentations, if any.	small-group discussion, in-class writing	Finish writing final Seminar report.

テキスト	None. For their own independent research projects, students will choose their own books and other materials to read.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	杉村 美佳	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習							
授業の概要	途上国への国際教育協力の状況を検討した上で、先進国における参加型学習の歴史や現状を理解し、途上国の問題解決に参加できる能力と態度を養う教育のあり方を考察する。前半は、テキストに基づいてグループ研究発表を行い、国際教育学研究の基礎理論を学ぶ。後半では、英文原書の講読を進め、途上国の女子教育について理解を深めるとともに、2年生のゼミ論文の発表に参加し、論文の書き方を学ぶ。							
達成目標	国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状を理解するとともに、教育学の英文原書を読む力を身につける。さらに国際的視点から日本の教育政策や教育実践などの方向性を探ることを通して、国際教育学研究の基礎的な理論と方法論を習得する。							
到達目標	①国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状に関する知識を習得し、国際的視点から教育事象を論理的、批判的に分析し、考察することができる。 ②テキストの内容を整理してレジュメを作成し、相手に効果的に伝わる発表や議論をすることができる。 ③英文講読を通して教育学の専門用語を学び、途上国の女子教育の現状と課題について理解し、教育学の英文原書を読む力を身につける。							
評価方法	①討論への参画(20%)、②研究発表(30%)、③英文講読(20%)、④リアクションペーパー(20%)、⑤ブックレポート(10%)							
評価基準	①討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 ②研究発表：テキストの内容を的確に整理してレジュメを作成し、効果的な発表を行っているか。討論の論点を提示しているか。 ③英文講読：英文原書の内容を的確に把握し、途上国の女子教育の現状と課題を理解できているか。 ④リアクションペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ⑤ブックレポート：内容を的確に要約し、国際教育学の視点から意見を論理的、批判的に論述できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	国際教育学の理論と研究倫理	講義、ディスカッション	テキスト序章の講読 発表・ディスカッションの準備
2	援助と開発の歴史	発表・ディスカッション・ 解説・リアクションペーパー	テキスト第1章の要約 発表・ディスカッションの準備
3	開発プロジェクトのタイプ	発表・ディスカッション・ 解説・リアクションペーパー	テキスト第3章の要約 発表・ディスカッションの準備
4	参加型開発とは	発表・ディスカッション・ 解説・リアクションペーパー	テキスト第4章の要約 発表・ディスカッションの準備
5	日本のNGOと参加型開発	発表・ディスカッション・ 解説・リアクションペーパー	テキスト第5章の要約 発表・ディスカッションの準備
6	日本の開発教育	発表・ディスカッション・ 解説・リアクションペーパー	テキスト第6章の要約 発表・ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	開発教育ワークショップ	ワークショップ・解説・リアクションペーパー	配布資料の講読 発表・ディスカッションの準備
8	総合学習と ESD	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第7章の要約 発表・ディスカッションの準備
9	参加型学習の歴史的系譜	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第8章の要約 発表・ディスカッションの準備
10	これからの国際協力と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト終章の要約 発表の準備
11	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.1-3 の翻訳 発表の準備
12	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.4-6 の翻訳 発表の準備
13	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.7-10 の翻訳 発表の準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	2年生ゼミ論文発表会、リフレクションタイム	学修成果の振り返り ポートフォリオ記入	ポートフォリオ記入 ブックレポートの作成

テキスト	田中治彦『国際協力と開発教育―「援助」の近未来を探る』（明石書店） King, Elizabeth M. <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank).
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書） 菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編著『ジェンダーと国際教育開発―課題と挑戦―』（福村出版）
その他 特記事項	発表の1週間前までに教員にレジメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	杉村 美佳	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習							
授業の概要	開発教育の理念と歴史、地球的課題と開発教育、今後の開発教育の展開について専門的に学ぶ。具体的には、日英テキストの講読を通して、国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどをテーマとした開発教育の方法やカリキュラムのあり方を考察する。また、実際に開発教育ワークショップに参加し、開発教育の実践に必要な知識や技術を習得する。最後に各自自由にゼミ論文のテーマを設定し、構想発表を行う。							
達成目標	国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどの地球的諸課題について理解を深めた上で、これらをテーマとした開発教育の実践に必要な技術を習得する。またゼミ論文のテーマを設定して文献を収集し、論点を整理して論文の構想を練り上げる力を習得する。							
到達目標	①国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどの地球的諸課題について、教育を通して問題を解決するための方法を考察することができる。 ②開発教育のワークショップへの参加を通して実践に必要な知識や技術を習得する。 ③ゼミ論文のテーマを設定して先行研究を整理し、研究課題や研究方法などの構想を適切にまとめることができる。							
評価方法	①討論への参画 (20%)、②テキスト発表 (30%)、③ゼミ論文の構想発表 (20%)、④リアクション・ペーパー (20%)、⑤ブックレポート (10%)							
評価基準	①討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 ②研究発表：テキストの内容を的確に整理して考察を加えたレジュメを作成し、効果的な発表を行っているか。英文原書の内容を的確に理解できているか。 ③ゼミ論文の構想発表：ゼミ論文のテーマを適切に設定して先行研究を整理し、研究課題や方法などの構想を論理的にまとめているか。 ④リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 ⑤レポート：文献を適切に要約して論点を整理し、意見を論理的に述べているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	開発教育の内容・方法・カリキュラムと研究倫理	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 2 章の要約 発表・ディスカッションの準備
2	ヨーロッパとアジアにおける開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 3 章の要約 発表・ディスカッションの準備
3	持続可能な開発目標 (SDGs) の課題	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 4 章の要約 発表・ディスカッションの準備
4	日本と世界の貧困問題	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 5 章の要約 発表・ディスカッションの準備
5	環境問題と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 6 章の要約 発表・ディスカッションの準備
6	多文化共生社会の実現に向けて	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 8 章の要約 発表・ディスカッションの準備
7	子供の権利条約	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 9 章の要約 発表・ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	開発教育ワークショップ	ワークショップ リアクションペーパー	配布資料の講読 発表・ディスカッションの準備
9	ジェンダーと開発	発表・ディスカッション・ 解説・リアクションペーパー	テキスト第10章の要約 発表・ディスカッションの準備
10	地域からの開発教育	発表・ディスカッション・ 解説・リアクションペーパー	テキスト第12章の要約 発表の準備
11	ゼミ論文構想発表（1）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	テキスト pp.285-287 の翻訳 発表の準備
12	ゼミ論文構想発表（2）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	テキスト pp.291-293 の翻訳 発表の準備
13	ゼミ論文構想発表（3）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	テキスト pp.294-296 の翻訳 発表の準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文構想発表（4）、リフレクションタイム	発表・ディスカッション 学修成果の振り返り	ポートフォリオ記入 ブックレポートの提出

テキスト	田中治彦『開発教育—持続可能な世界のために—』（学文社） King, Elizabeth M. <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank).
参考書	田中治彦・杉村美紀編『多文化共生社会における ESD・市民教育』（上智大学出版） 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）
その他 特記事項	発表の1週間前までに教員にレジュメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	杉村 美佳	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	先行研究の検討、研究課題・研究方法の設定、文献研究・調査、ゼミ論文の作成、発表							
授業の概要	プレ・ゼミナールおよびゼミナールⅠで学んだ国際教育学研究の基礎的な理論と手法を用いて実際にゼミナール論文を作成する。毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議する。また、1年次生を対象に開発教育のワークショップを実践する。							
達成目標	国際教育学研究の基礎的な理論と研究手法を用いて教育事象を論理的、批判的に考察し、ゼミナール論文を作成、完成させることを目標とする。また、研究成果の報告ではお互いの課題を見出して討議し、効果的に発表する力を培う。さらに開発教育の実践を通して基礎的な指導技術を習得する。							
到達目標	①先行研究の検討、研究課題の設定、文献研究や各種調査などを通して論文作成に必要な知識、技法を習得し、研究論文の形に仕上げることができる。 ②研究内容を論理的に論述し、独自の考察を加え、説得力のある発表ができる。 ③毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議することを通して、教育事象を論理的、批判的に分析し、考察できるようになる。 ④開発教育の実践を通して基礎的な指導技術を習得する。							
評価方法	①討論への参画(10%)、②リアクションペーパー(20%)、③研究発表(30%)、④ゼミ論文(40%)							
評価基準	①討論への参画：研究発表に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 ②リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 ③研究発表：研究内容を論理的に論述、考察し、説得力のある発表になっているか。 ④ゼミ論文：先行研究の検討、研究課題の設定、研究方法、内容が論文の技法に即して適切であるか。書式や提出期限を守っているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ゼミ論文の書き方、研究倫理	発表・解説・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
2	ゼミ論文中間発表と討論(1)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
3	ゼミ論文中間発表と討論(2)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
4	ゼミ論文中間発表と討論(3)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
5	ゼミ論文中間発表と討論(4)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
6	ゼミ論文中間発表と討論(5)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
7	開発教育ワークショップの準備	ディスカッション・相互評価講評	解説の要約、教材の準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	開発教育ワークショップの実践	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	教材の準備、論文の作成
9	ゼミ論文発表と討論（1）	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
10	ゼミ論文発表と討論（2）	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
11	ゼミ論文発表と討論（3）	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
12	ゼミ論文発表と討論（4）	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
13	ゼミ論文発表と討論（5）	発表・ディスカッション・ リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文発表会、リフレクション・タイム	発表・ディスカッション 学修成果の振り返り	学修ポートフォリオ記入 発表の準備、論文の作成

テキスト	特になし。適宜、プレ・ゼミナールおよびゼミナール I で使用したテキストを参照する。
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書） 『杉村ゼミ論文集』
その他 特記事項	ゼミ生には討議への活発な参加を求める。発表の1週間前までに原稿を教員に提出し、添削を受けること。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	狩野 晶子	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-③, 5-②	
キーワード	コミュニケーション型言語教育、言語習得、児童英語教育、アクティブラーニング							
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレゼミでは各自が自ら興味のあるテーマで研究を進める土台づくりとなる知識を応用言語学の観点から学び、そこから幅広く発展する分野の知識と関心を深め、2年次のゼミナールへの土台となる力を養う。							
達成目標	興味関心のあるテーマについて文献を読み、文献資料に基づいて発表を行い、質疑応答ができるようになる。さまざまな関連テーマの内容について読み、調べ、発表することを通して言語学と言語習得の基礎について学ぶ。発表を通して効果的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。							
到達目標	グループや個人での発表を通して、発表準備の手順を学び、聞き手にわかりやすく伝わる発表に不可欠な要素について体得する。資料を読み、理解を深め、内容をアウトラインとしてまとめレジュメを作成する過程で専門知識を深める。他の学生の発表を聞き的確な質問やコメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。							
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢(30%)、②リアクションペーパー及び相互フィードバック(30%)、③グループおよび個人プレゼンテーション(20%)、④期末課題(20%)。							
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。 ②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。 ③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表、質疑応答を行える。 ④テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿って資料として作成できる。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス 発表グループと分担決め	講義、 グループワーク	テキスト通読
2	テキストの読み進め方、具体的な発表の手法、研究倫理	グループワーク	テキスト通読 発表準備
3	テキストをもとに発表・ディスカッション(1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
4	テキストをもとに発表・ディスカッション(2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	テキストをもとに発表・ディスカッション(3)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	テキストをもとに発表・ディスカッション(4)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	テキストの総括、ブックレポートについて発表の進め方の指導	講義、講評、ディスカッション	相互フィードバック準備 リアクションペーパー
8	ブックレポート発表・ディスカッション (1)	学生発表、相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
9	ブックレポート発表・ディスカッション (2)	学生発表、相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
10	ブックレポート発表・ディスカッション (3)	学生発表、相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
11	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野をディスカッションを通して考える	グループワーク、講評、ディスカッション	ブックリスト提出準備 リアクションペーパー
12	次年度ゼミに向けて・ブックリスト発表 (1)	グループワーク、講義、発表、講評	発表準備、ブックリスト リアクションペーパー
13	次年度ゼミに向けて・ブックリスト発表 (2)	グループワーク、講義、発表、講評	発表準備、ブックリスト リアクションペーパー
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	振り返りとまとめ [リフレクション・タイム (学修ポートフォリオ作成)]	振り返り活動 教員による個別面談	総括 (レポートとして提出)

テキスト	小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社）
参考書	村野井 仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』（大修館書店）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスマーケティング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	狩野 晶子	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-②	
キーワード	コミュニカティブな言語教育、言語習得、児童英語教育、アクティブラーニング							
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレゼミで学んだ基本的な知識をベースに、ゼミ論文作成へつながる個人のテーマを決め、内容を絞り込み深めてゆき、ゼミ II での発表、論文作成に向け準備を整える。							
達成目標	各自の研究テーマについて研究調査の基本的な進め方を体得する。文献の探し方、引用の仕方、研究倫理を学び、資料を読み、理解し、内容について要旨をまとめる。発表を通じて効果的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。							
到達目標	各自が興味関心のあるテーマについて文献を調べ、聞き手がその内容を理解し関心を共有できる発表と質疑応答を行う。発表者は担当箇所について十分に理解を深め、さらに他の文献・資料にもあたりレジюмеを作成し発表準備を行う。聞く側は発表に基づいた的確な質問、コメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。発表の内容をもとにディスカッションを行う手法を学び、実践する。							
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢 (30%)、②リアクションペーパー及びフィードバック (30%)、③プレゼンテーション (20%)、④期末課題 (20%)							
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。 ②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。 ③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表し、質疑応答を行える。 ④ゼミ論文の中間報告として、テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を読み手を意識したわかりやすく的確な表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿った資料として作成できる。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	プレゼミ概観・総括 各自が興味のあるテーマを考える	グループワーク	プレゼミテキスト復習 テーマ予備調査
2	各自が興味のあるテーマを調べ、深める 文献の探し方、研究倫理指導	講義、グループワーク、 適宜図書館等を利用	テーマ探し、文献検索 ブックリスト作成
3	プレゼンテーションスキルの具体的指導	講義、実践指導、 学生フィードバック	ポイント要約 発表準備
4	各自のテーマを深め、調べる	個別活動、面談、 教員による個別指導	各自テーマを調べる
5	各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション (1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション (2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (1)	学生発表、質疑応答、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
8	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (2)	学生発表、質疑応答、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
9	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (3)	学生発表、質疑応答、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
10	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (4)	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	プレゼンテーションの反省 各自のテーマの方向性の検討	省察、相互評価、ディスカッション	リアクションペーパー
12	テキスト発表準備 (1) [夏合宿にて発表予定]	ディスカッション、グループワーク	テキストを読み、アウトライン作成・準備
13	テキスト発表準備 (2) [夏合宿にて発表予定]	ディスカッション、グループワーク	テキストを読み、アウトライン作成・準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ I の総括「リフレクションタイム (学修ポートフォリオ作成)」	省察、相互評価、ディスカッション	テーマに沿って発表アウトライン作成

テキスト	1. 小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社） 2. 村野井 仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』（大修館書店）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスマーケティング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	狩野 晶子	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-②	
キーワード	コミュニケーション型な言語教育、言語習得、児童英語教育、アクティブラーニング							
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、プレゼミとゼミⅠで学んだ知識をベースに、各自が設定したテーマを調べ、発表の過程を通して内容をまとめ、卒業課題となるゼミ論文を完成させる。研究内容を学術論文の体裁に従ってまとめる具体的方法と、研究倫理、効果的なプレゼンテーションのスキルを併せて学ぶ。							
達成目標	各自の研究テーマについて研究調査を進め、学術論文としての体裁を整えたゼミ論文を作成する。そのゼミ論文のアウトラインをゼミ最終発表として、パワーポイントスライドショー形式で他のゼミ生の前で発表する。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。							
到達目標	各自の研究テーマに沿って学びを深め、構成や書式などの基本的な規定を守ったうえで、他のゼミ生が内容を理解し関心を共有できるようなゼミ論文を書く。最終発表としてゼミ論文の概要を短く適切にまとめ、ビジュアル資料を活用し、聞く者にわかりやすく発表する。他者の発表を聞き的確な質問、コメントをする力を養う。今後の進路に向け、自律的、主体的学習者としての意識を持ち、実践する。							
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢(20%)、②リアクションペーパー及びフィードバック(20%)、③プレゼンテーション(30%)、④ゼミナール論文(30%)。							
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて確かな表現で文章化できる。③ゼミ論文の内容について聞き手が理解しやすい構成とビジュアル資料を活用した準備と発表、質疑応答を行える。④ゼミナール論文として十分な文献や資料を調べ、所定の構成および書式に則った文章を作成できる。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	論文作成に向け進捗状況と課題点の確認	グループワーク、 教員との個別相談	プレゼミテキスト復習 テーマアウトライン準備
2	論文作成に向け各自のテーマについてグループディスカッション、コメント	グループワーク	文献研究 テーマアウトライン準備
3	論文作成に向け各自のテーマに従って準備、研究倫理	個別活動、 教員との個別相談	文献研究 テーマ概要発表準備
4	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、 講評	発表準備 リアクションペーパー
5	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、 講評	発表準備 リアクションペーパー
6	最終プレゼンテーション(論文報告)準備(1)	個別活動、面談 (教員による個別指導)	発表準備 リアクションペーパー
7	最終プレゼンテーション(論文報告)準備(2)	個別活動、面談 (教員による個別指導)	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	最終プレゼンテーション（論文報告）準備（3）	個別活動、面談 （教員による個別指導）	発表準備 リアクションペーパー
9	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（1）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
10	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（2）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（3）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
12	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（4）	学生発表、 相互評価、講評	論文初校提出準備
13	論文初校提出：相互校正	相互校正、相互評価	論文初校修正、最終稿へ向け 修正方針をまとめる
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ総括「リフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）」、ゼミ論文指導	振り返り活動、 ディスカッション	論文初校修正方針の確認、論文最終稿提出準備

テキスト	なし。ゼミナールⅠにて指定したテキストを継続使用。		
参考書	1. 小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社） 2. 村野井 仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』（大修館書店）		
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスマーケティング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	小林 宏子	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4204	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	マザー・テレサ、キリスト教人間観、信仰、祈り、愛、奉仕、召命、隣人愛の実践、救い							
授業の概要	テキスト講読を通してマザー・テレサの言葉や活動の源泉にある神への信仰と愛について学びキリスト教信仰が目指す「神とのかかわり方」や「この<世>とのかかわり方」について考察する。また、学生同士、また教員との意見交換を通して、現代社会が抱える種々の<貧しさ>の問題と向き合いながら「隣人愛」の実践に向けた各自の研究テーマを明確にする。							
達成目標	キリスト教信仰に根差し、奉仕という形で結実する愛の実践に不可欠となる神概念と人間観の基礎を理解することができる。また、個人の人生の目的を、超越的存在から示される一定の使命への招きとそれへの応答として理解し、使命をまっとうする生き方がもたらす肯定的、創造的意義を理解し、自分の人生設計に役立てる方法を学ぶ。							
到達目標	①キリスト教的愛の徹底的な実現モデルであるマザー・テレサの行動原理とその力の源泉を理解し、宗教が持つ肯定的な意義を理解することができる。 ②人間の宗教的次元を開花させるために不可欠な内面的成熟の諸要素を意識化し、社会で起こる問題を自分とのかかわりの中で考察することができる。 ③各自の研究テーマに即した参考書の内容を要約し、キリスト教的視点からの考察も加えた上で、自身の見解を論理的に展開してまとめ、口頭発表ができる。							
評価方法	①毎回の事前課題の提出(15%)とリアクションペーパー(15%) ②話し合いへの参画(15%) ③テキスト講読の発表と質問への応答(25%) ④ブックレポートと発表(30%)							
評価基準	①課題となっているテキストの内容や、授業の内容を的確に理解した上で、それらに対する自分の見解を、論理的に記述できること。 ②自身の省察の結果を分かりやすく説明でき、他者との間に対話的姿勢を持っていること。 ③テキストの内容を要約し、レジュメを作成し、話し合いのために、主題に沿った発展的質問を準備したこと。また、質問されたことに答えられること。 ④研究テーマに沿った参考書の内容を的確に要約し、自分の見解を論理的に記述した上で、口頭発表できること。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション、課題の発表、研究倫理教育	講義、発表、DVD視聴、リアクションペーパー	夏季休暇中の課題発表準備
2	マザー・テレサの信仰と霊性	講義、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「編者のノート」を読みコメントシートとディスカッションの準備をする
3	祈り(1) 沈黙の中で神に聞く	講義、発表、DVD視聴、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「1.祈り」前半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
4	祈り(2) どのように祈るか	講義、発表、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「1.祈り」後半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	信仰（1） 何を信じているのか	講義、DVD視聴、発表、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「2.信仰」前半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
6	信仰（2） 神のまなざしで見るとということ	講義、発表、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「2.信仰」後半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
7	愛（1） 孤独という病を癒す神の愛	講義、発表、DVD視聴、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「3.愛」前半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
8	愛（2） 小さな行いに大きな愛を込めるとということ	講義、発表、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「3.愛」後半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
9	奉仕（1） 「神の愛の宣教者会」の活動	講義、発表、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「4.奉仕」前半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
10	奉仕（2） 活動における愛について	講義、発表、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「4.奉仕」後半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
11	平和（1） 平和を求める祈り	講義、DVD視聴、発表、話し合い、リアクションペーパー	テキスト「5.平和」前半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
12	平和（2） それでも、一番いいものを分け与えなさい	講義、発表、分かち合い、リアクションペーパー	テキスト「5.平和」後半を読み、コメントシートとディスカッションの準備をする
13	マザー・テレサの遺言 学生発表	講義、発表、分かち合い、リアクションペーパー	ブックレポートの提出
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	リフレクションタイム	学修成果の振り返り、学修ポートフォリオ記入	学修ポートフォリオ記入

テキスト	マザー・テレサ（著）ルシンダ・ヴァーディ（編）『マザー・テレサ語る』（早川文庫）
参考書	片柳弘史『祈りへの旅立ち—マザー・テレサに導かれて』（ドン・ボスコ社） 来住英俊『気合の入ったキリスト教入門〈2〉イエス登場！』（ドン・ボスコ社） 百瀬文晃『キリスト教の輪郭』（女子パウロ会）

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	Thomas	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4211	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-③	
キーワード	Peace, positive peace, negative peace, structural violence, causes of war, peace movements							
授業の概要	This course introduces basic concepts of peace studies and deals with some major issues in the world today. Some of the principal themes in this course are struggle for peace, wellbeing of human beings and sustainability of nature. Students' active participation in discussions, pair work and presentations are required to facilitate active and participatory learning in class. Through these activities, students will develop critical thinking, ability to express their thoughts and opinions, and respect others' opinions.							
達成目標	Through this course, students will acquire an introductory knowledge of the basic concepts and issues in peace studies. They will also learn the skills to participate in a discussion, to make PowerPoint presentations and take notes in English. Students will also be trained to write a systematic essay separating facts from opinions and following research ethics.							
到達目標	<p>By the end of this course, students should be able to</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• understand the key concepts, history and the basic issues in peace studies</li> <li>• think critically about social and political issues that affect the national and international community</li> <li>• participate in a discussion creatively on topics related to peace studies</li> <li>• write a short research paper related to peace and issues related to peace</li> <li>• read English essays, understand the main points, summarize them and make a clear presentation</li> <li>• improve their knowledge of English vocabulary related to peace studies and world issues</li> </ul>							
評価方法	Class participation (40%), research presentation (30%), final essay (30%)							
評価基準	To be distributed at the first class.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction to teaching materials, class policies, evaluation criteria, and research ethics	Lecture, discussion, Q&A	Purchase textbook, prepare for self-introduction
2	Unit 1 Education and Gender- education of women in Afghanistan and India	Lecture, group work, discussion, presentation	Read Unit 1, do research on the assigned topic (AT)
3	Unit 2 Global Warming – Environmental threats to our planet	Lecture, discussion, group work, quiz	Read Unit 2, prepare for quiz
4	Unit 3 Drinking Water – water problem in Gaza and water pollution	Lecture, discussion, group work, presentation	Read Unit 3, do research on the AT and prepare for presentation
5	Unit 4 Poverty and Hunger – Child malnutrition in Niger; How to do research	Lecture, discussion, group work	Read Unit 4, read handout on “How to do research”
6	Unit 5 Fighting Disease – Malaria and HIV / AIDS; discussing research topic	Lecture, discussion, group work, presentation	Read Unit 5, write a description of your research topic
7	Unit 6 Terrorism – 9/11 Counter Terrorism Strategy; presentation of research topic	Lecture, discussion, group work, presentation	Read Unit 6, prepare a bibliography for your research
8	Unit 9 Genocide and Crimes against Humanity – The Khmer Rouge	Lecture, discussion, group work, quiz	Read Unit 9, prepare for quiz

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	Unit 10 Landmines – Demining in Afghanistan and Cambodia; essay writing	Lecture, discussion, group work	Read Unit 10, read handout on essay writing
10	Unit 11 Refugees – Life in a Refugee Camp and International Refugee Law	Lecture, discussion, group work, presentation	Read Unit 11, do research on AT and prepare for presentation
11	Democracy and human rights in Burma – struggle of the Rohingya people	Lecture, discussion, group work, presentation	Do research on the AT and prepare for presentation
12	Research presentation by the students (by half students)	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation
13	Research presentation by the students (by the remaining students)	Presentation, Q&A, discussion	Prepare for presentation
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	Recap of the course, Reflection time, submission of the final report	Discussion, Q&A	Prepare the final report, review the semester

テキスト	Keiso Tatsukawa, Walter Davies et al. <i>Global Issues Towards Peace</i> (Nanun-do).
参考書	岡本 三夫、横山 正樹編著『新・平和学の現在 <i>Peace Studies in the Making: A New Edition</i> 』（法律文化社） David P. Barash. <i>Introduction to Peace Studies</i> (Wadsworth Publishing Company).

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	岩崎 明子	
開講期	秋	開講時限	水4限	研究室	4213	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-③	
キーワード	環境、教育、水問題、貧困、戦争、平和							
授業の概要	この授業ではグローバル・リテラシーの能力を言語面と国際問題（グローバル問題）に焦点を当てて学習していく。グローバル問題は、各国の人々が地球全体の問題として緊急に解決しなければならない問題であり、グローバル問題を理解するために、様々な事柄に関連する背景知識を教養として知っていく。また、問題意識を高める記事の読書は英文を含めて行っていくので、授業では英語で聞く読む技能を磨きながら興味ある研究課題を探し、調べ、発表する方法で学習を進めていく。							
達成目標	グローバル問題を題材にしながら、問題意識を高め、研究課題の調査・まとめ・発表の共同研究を行う力をつける。							
到達目標	①テキストに基づき、グローバル問題を調べ、発表し、質疑応答やディスカッションを通して、クラスで問題を考察する力をつける。 ②英語文献を読み、ニュースを聴く力をつけるとともに関連英語の語彙を増やす。 ③共同研究を通し、資料収集方法や研究倫理、文書のまとめ方、発表方法を学ぶ。							
評価方法	討論へ参画、コメントシート（30%）、英文講読（25%）、研究発表（20%）[2回]、中間レポート（10%）、期末レポートと発表（15%）							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 討論への参画：研究発表に対し、課題への問題意識を持ち、積極的に批判的に討議できているか。また、各回のコメントシート CS（授業の準備、授業を通しての考察）が論理的に述べられているか。</li> <li>* 英語文献の講読：英語文献の内容を的確に把握し、語彙を習得できたか。</li> <li>* 研究発表：(1) テキスト内容を理解し、文献調査や、レジメの作成などが的確にできたか。(2) 中間レポートの主題にそってサブトピックを選び、文献調査をし、レジメを作成し論理的な発表ができたか。期末発表ではパワーポイントを使用し、研究の概要説明ができたか。</li> <li>* 中間・期末レポートは授業で扱ったテーマと関連する興味ある題材を選びグローバルな社会問題について研究し、中間レポートは関連する資料を参照し 2,000 字以上に論理的にまとめることができたか。期末レポートは関連する文献資料を 2 冊以上読んで 4,000 字以上に小論文形式で論理的にまとめることができたか。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	グローバル・リテラシーとグローバル問題、サステナビリティとは	講義、発表 グループ決め	2015-2030のGlobal Goalsの資料を読む
2	共同研究のやり方、レジメの書き方、コメントシート（CS）の書き方、研究倫理	講義、討議 （PCルームで作業）	Ut.1 教育とジェンダーを読み CS を書く。発表準備
3	Ut.1 教育とジェンダー： 開発教育、女性のエンパワーメント	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.1 の CS に感想を入れ提出 Ut.2 読み CS 準備。発表準備
4	Ut.2 地球温暖化： 原因と結果、問題解決のために	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.2 の CS に感想を入れ提出 Ut.3 読み CS 準備。発表準備
5	Ut.3 水の問題—飲料水の確保： 水争奪戦争、水資源	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.3 の CS に感想を入れ提出 Ut.4 読み CS 準備。発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	Ut.4 貧困と飢餓： 貧困問題は人が生み出すもの？	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.4 の CS に感想を入れ提出 Ut.5 読み CS 準備。発表準備
7	Ut.5 グローバリゼーションと疫病： 鳥インフルエンザ、エボラウイルス	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.5 の CS に感想を入れ提出 通常準備、中間課題提出
8	Ut.6 テロリズム： グローバリゼーションとテロリズム	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.6 の CS に感想を入れ提出 Ut.8 読み CS 準備。発表準備
9	Ut.8 平和と紛争の問題（1） 核兵器	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.8 の CS に感想を入れ提出 Ut.9 読み CS 準備。発表準備
10	Ut.9 平和と紛争の問題（2） ーなぜ大量虐殺は起こったのかー	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.9 の CS に感想を入れ提出 Ut.11 読み CS 準備。発表準備
11	Ut.11 平和と紛争の問題（3） ー難民問題とはー	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.11 の CS に感想入れ提出 Ut.12 読み CS 準備。発表準備
12	Ut.12 平和と紛争の問題（4） ー平和のために、ネルソン・マンデラー	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.12 の CS に感想入れ提出 期末課題の発表準備
13	期末課題レポートのポスターセッション (1/3 発表×3、2/3 評価) 25 分×3 組	一人 3 回発表、Q&A 評価シートへ記入	評価シート提出、学修ポートフォリオ準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	2 年生のゼミ論文発表への参加、リフレクションタイム、学修ポートフォリオ作成	記録、質疑応答	期末課題、評価シート、学修ポートフォリオ提出

テキスト	達川奎三、ウォルター・ディビス（2014）『Global Issues Towards Peace - DVD で学ぶ共存社会ーグローバル時代を考える』（南雲堂）、他ハンドアウト
参考書	花井等、若松 篤（著）『論文の書き方マニュアルーステップ式リサーチ戦略のすすめ 新版』（有斐閣アルマ）（2014） 東海大学教養学部国際学科編（2013）『第 4 版国際学のすすめーグローバル時代を生きる人のために』（東海大学出版会）
その他 特記事項	ゼミ生にはグローバル問題に関心を寄せ、問題意識を高めること、および、ゼミの討論への積極的な参加を望む。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	岩崎 明子	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	グローバル問題、温暖化、水問題、人権、健康、生物多様性、など							
授業の概要	英文教科書を中心に読み、担当は World Issues の各テーマについて詳細なリサーチ結果をまとめ発表後、クラスディスカッションを通して問題点の考察を深める。参加者全員は取り扱う内容を毎回テーマレポート (TR) にまとめて準備し授業に臨む。中間期までにゼミ論文のテーマ決めと、学期末までに参考資料 10 冊の一覧表を論文解題 (Annotated Bibliography) の形式で提出する。							
達成目標	様々な World Issues について問題を理解し考察を深め、発表やディスカッション、まとめをより効果的に行えるように体験的に学ぶ。英文記事の読解によって英語力を伸ばす。リサーチ方法を学び、ゼミ論文の準備を行う。							
到達目標	授業の準備と参加によって、より論理的な発表や意見の発言やまとめが出来るようになる。英語文での資料読解に慣れ、英語サイトのリサーチにも応用できるようになる。リサーチ方法、論文の書き方を学び、論文解題の作成を通し、ゼミ論文の準備をする。							
評価方法	① テーマに沿ったプレゼンテーション 2 回 (ペア) とレジメ 20% ② テーマレポート (TR) とリアクションペーパー (リアペ) 10 回 30% ③ 中間レポート (2,000 字以上) 10% ④ 期末レポート (4,000 字以上)・レジメ作成、プレゼンテーション (1 人) 30% ⑤ ゼミ論文のための論文解題レポート 10%							
評価基準	① テーマに沿ったプレゼンテーション 2 回 (ペア) とレジメ 20% リサーチをして十分な資料をもとにプレゼンテーションを組み立て、発表のレジメも効果的に作られているか。Q & A のための準備をして、ゼミ生のディスカッションを効果的に行うことができたか。 ② テーマレポート (TR) とリアクションペーパー (リアペ) 10 回 30% 毎回の TR を書くことで、話し合いのための準備ができてきているか。リアクションペーパーでは単なる感想に終わらず、授業中の発表や話し合いで得た新しい知識を反映させる形でまとめられたか。 ③ 中間レポート (2,000 字以上) 10% 教科書で取り扱った Global 問題について取り上げ、4 つ以上の他の資料を基に主題のある論文にまとめられたか。 ④ 期末レポート (4,000 字以上)・レジメ作成、プレゼン (1 人) 30% レポートの主題は、Global 問題について 2 つの国の取り組みについてリサーチをし、問題の状況や対処のやり方を比較対象して論文にする。 プレゼンテーションでは、主題が明確で、理路整然とスピーチが制限時間以内にできたか。レジメはスピーチを理解させるために効果的に書かれ、使われていたか。 ⑤ ゼミ論文のための論文解題レポート 10% 書籍 2 冊以上と各種研究論文、合わせて 10 項目の論文解題レポートを作る。その内容の要約と自分の論文テーマとの関連について、きちんとした評価が各論文解題にたいしておこなえているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス、リサーチとゼミ論文解題 研究倫理について、担当分け	講義、意見交換	Ut.1 地球温暖化の問題 Good by, Maldives 読み準備
2	Ut.1 地球温暖化の問題 Good by, Maldives, TR (1)	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.1. TR 提出、Ut.2 読み準備 (TR)
3	Ut.2 新たな共同体づくりへのチャレンジ Sustainable Communities	発表、意見交換、講義 リアペ	ゼミ論文テーマ提出、Ut.2 TR 提出、Ut.3 読み準備 (TR)
4	Ut.3 経済格差 : Economic Inequality: the Glowing Gap	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.3 TR 提出、Ut.4 読み準備 (TR)
5	Ut.4 エコツーリズムの挑戦 Dilemmas for a Responsible Tourism	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.4 TR 提出、Ut.5 読み準備 (TR)
6	Ut.5 生物多様性から学ぶもの Learning from Nature	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.5 TR 提出、Ut.6 読み準備 (TR)
7	Ut.6 水問題 : We Can't Live Without Water	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.6 TR 提出、Ut.7 読み準備 (TR はナシ)
8	Ut.7 世界遺産の保護 : Protecting World Heritage	発表、意見交換、講義 リアペ	中間課題提出、Ut.8 読み準備 (TR)
9	Ut.8 健康と食べ物 : The War on Sugar	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.8 TR 提出、Ut.9 読み準備 (TR ナシ)
10	Ut.9 エネルギー問題 : Energy for a Stable Climate	発表、意見交換、講義 リアペ	期末アウトライン提出、Ut.10 読み準備 (TR)
11	Ut.10 熱帯雨林保護と人権 : Yasuni: A Dream of the Future	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.10 TR 提出、Ut.11 読み準備 (TR ナシ)
12	Ut.11 大農園の生産物 : No More Bananas?	発表、意見交換、講義 リアペ	期末発表レジメ初稿提出、 Ut.14 読み準備 (TR)
13	Ut.14 非暴力抗議と市民的不服従 : When It is Right to Break the Law / 期末発表 (1)	講義、発表、Q&A、評 価	Ut.14 TR 提出、論文解題準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	期末発表 (2)、リフレクション・タイム (学 修ポートフォリオ作成)、まとめ	講義、発表、Q&A、評 価	期末レポート、論文解題レポ ート提出

テキスト	David Peaty, Jun Kawata (2018). <i>Issues That Matter</i> (Kinseido). 野田直人 (2015) 『小論文・レポートの書き方—パラグラフ・ライティングとアウトラインを 鍛える演習帳』(有限会社人の森)
参考書	日能研 (2017) 『国連 世界の未来を変えるための 17 の目標 SDGs—2030 年までのゴール』 (みくに出版)

科目名	SES300: ゼミナールⅡ					担当教員	岩崎 明子	
開講期	秋	開講時限	水5限	研究室	4213	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④	
キーワード	ゼミ論文の作成法、研究課題の設定、中間発表、公開発表							
授業の概要	今までに学んだ知識を生かし、自分の関心テーマに従って、ゼミナール論文を作成する。毎回の発表では、発表者が自分の研究成果を発表し、参加者全員で課題を討論する。中間発表およびゼミ終了日にはゼミ論文についての発表をする。							
達成目標	グローバルな世界の問題の中から、選択した自分のテーマをあらゆる角度から研究し、まとめ、発表し、ゼミ論文作成をすることが目的である。教材にはSDGs(Sustainable Development Goals: グローバル・ゴールズ)に関するテーマを扱う。							
到達目標	①先行研究の検討、研究課題の設定、調査、討論をとおして、論文作成に必要な知識と技術を身につける。 ②SDGsの実例を取り上げ、内容を論理的、批判的にまとめ考察し発表することができるようになる。							
評価方法	1)教科書の輪読、各章担当者2名で発表、レジメ配布20%。ディスカッション後、毎回リアクションペーパー提出30%。 2)ゼミ論文に関わる提出50%。							
評価基準	1)教科書の輪読、各章担当者2名で発表、レジメ配布20%。ディスカッション後、毎回リアクションペーパー提出30%。 リサーチをして十分な資料をもとにプレゼンテーションを組み立て、発表のレジメも効果的に作られているか。Q&Aのための準備をして、ゼミ生のディスカッションを効果的に行うことができたか。 2)ゼミ論文に関わる提出50% ①論文の計画書の提出、(要旨、アウトライン、参考資料を含める) ②論文の要旨についての中間発表(PPTで15分、配布用レジメを用意、Q&A) *9月の夏合宿及び1~2回目の授業で行う。 ③初稿の提出(10,000字~12,000字、or 12,000字以上)12月20日 ④ゼミ論文発表(PPTで15分、配布用レジメを用意、Q&A) ⑤ゼミ論文清書の提出1月末 *提出期限を守れたか。 *論文提出の決められた書式をすべて守れたか。 *論文の内容:10,000~12,000字の字数の中で自分のテーマに従って、段階的に十分なリサーチに基づいた論理的な文章を各種資料の引用をきちんと行いながらまとめられたか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、研究倫理、持続可能な開発目標(SDGs)の全体像	講義、意見交換	教科書2章準備
2	2章、経済開発とSDGs—民間主導のアフリカ経済	発表、意見交換、講義	教科書3章準備、ゼミ論文テーマと要旨と文献表提出
3	3章、ソーシャルビジネスとSDGs—インフラ普及における有効性	発表、意見交換、講義	教科書4章準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
4	4章、都市化とSDGs—都市化の肯定的利用手段としての建築物	発表、意見交換、講義	教科書5章準備、ゼミ論文アウトライン提出
5	5章、環境分野でのSDGsの達成に向けた国際貢献	発表、意見交換、講義	教科書6章準備
6	6章、防災とSDGs—SDGsの礎として	発表、意見交換、講義	教科書7章準備
7	7章、ジェンダーとSDGs—女性のエンパワーメントと障壁	発表、意見交換、講義	教科書8章準備 ゼミ論文1,2章提出
8	8章、社会的保護・社会保障とSDGs 拡大する社会的保護/ゼミ論文要旨説明①	発表、意見交換、講義	教科書9章準備 要旨説明準備
9	9章、すべての人に対する支援とSDGs 不可欠な障害者支援/ゼミ論文要旨説明②	発表、意見交換、講義	教科書10章準備 要旨説明準備
10	10章、観光開発とSDGs—Sustainable Tourism/ゼミ論文要旨説明③	発表、意見交換、講義	教科書11章準備 要旨説明準備
11	11章、アフリカの開発とSDGs—SDGsとアフリカ開発銀行の役割	発表、意見交換、講義	教科書12章準備 ゼミ論文初稿提出（12月）
12	12章、アフリカにおける農業と技術	発表、意見交換、講義	教科書13章準備、PPTの用意、ゼミ論文初稿返却
13	13章、マサイコミュニティとSDGs ゼミ論文研究発表（1）	発表、Q&A、評価、自己評価	PPTの用意
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	ゼミ論文研究発表（2）とリフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）	発表、Q&A、評価、自己評価	ゼミ論文清書提出（1月）

テキスト	東洋大学国際共生社会研究センター編（2017）『持続可能な開発目標と国際貢献—フィールドから見たSDGs—』
参考書	花井 等、若松 篤（著）（2014）『論文の書き方マニュアル—ステップ式リサーチ戦略のすすめ新版』（有斐閣アルマ）
その他 特記事項	9月中旬に夏期合宿を行う。合宿では、UNESCO資料を使って様々な角度でChildren's Rightについてのリサーチ内容と、各自のゼミ論文についての構想をPPTで発表する。事情で参加できないゼミ生は、発表を学期初めの授業で行う。